

ハーレーダビットソンFLH《クラシック》サイドカー

AMF

# HARLEY DAVIDSON

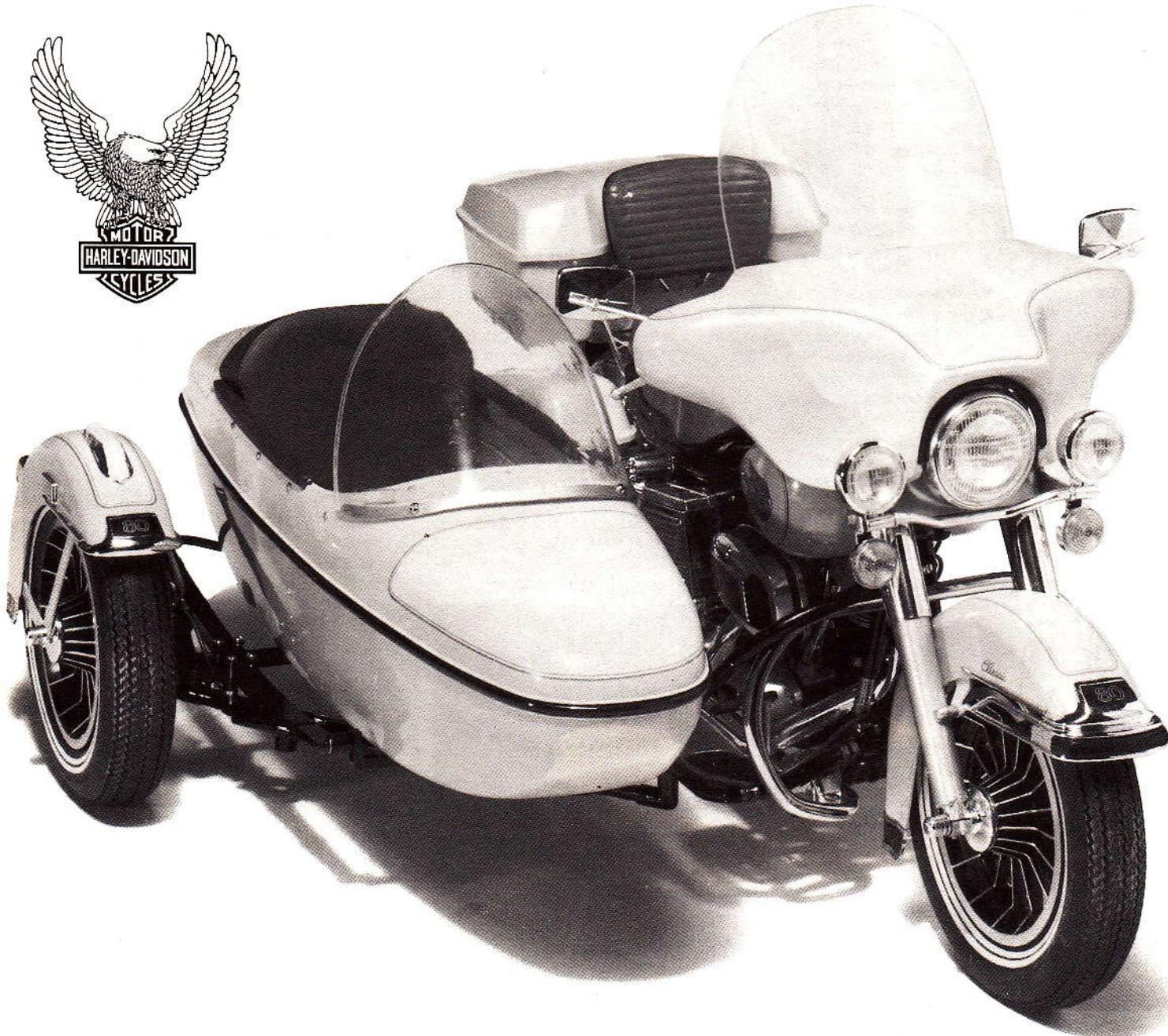
## FLH CLASSIC with SIDE CAR

1:6 SCALE

SUPER DETAILED V-TWIN ENGINE  
COIL SPRUNG WORKING FRONT & REAR SUSPENSION  
SUPER DETAILED SEMI PNEUMATIC RUBBER TYRES  
FULL ACCESSORY PARTS MANY METAL PARTS

BIG SCALE 1/8 ★★ TAMIYA

TAMIYA PLASTIC MODEL CO.  
3-7 ONDAWARA, SHIZUOKA-CITY, JAPAN.



# HARLEY DAVIDSON FLH CLASSIC with SIDE CAR



サイドカーの歴史は、オートバイとはほぼ同じ頃から始まったと言えます。世界最初のオートバイは、ドイツのゴットリーフ・ゲイムラーによって作られましたが、オートバイが一般に使われるようになってしばらくすると、オートバイの横に第3の車輪をつけ、座席などをセッティングした「サイドカー」が、オートバイユーザーによって自作され始めたのです。サイドカーをつけることによって、オートバイだけの場合にくらべて安定性が良くなり、より多くの荷物を積め、もちろん座席をつければ人を乗せることもできました。当時、自動車は一般大衆にとってまだまだ高嶺の花であり、手軽で実用的な乗り物としてのサイドカーの人気が高まるにつれて、サイドカーの専門メーカーが生れ、またオートバイメーカーもサイドカーを用意するようになるのです。

1914年、第1次大戦が始まるとサイドカーは戦場でも活躍するようになります。機動性の良さを生かして連絡や偵察などに使われることになったのです。そして第1次大戦と第2次大戦の間は、サイドカーにとっての黄金時代だったと言えるでしょう。オートバイそのものの性能も上り、豪華なサイドカーが流行しました。ガラスがはめ込まれた窓や乗降用のドアを持った屋根つきボディの2人乗りなどといった自動車のような立派な客室を装備したサイドカーさえ現われたのです。しかし、オースチン7やT型フォードなどの本格的な小型大衆車の普及により、サイドカーは簡便な交通機関というよりは、次第に操縦する楽しさを持ったスポーティな乗り物として愛されるようになっていくのです。

第2次大戦では、サイドカーは大量に使われました。なかでも最もサイドカーを多用したのは、ドイツとイギリスでした。ドイツはBMWをはじめとして、またイギリスはノートンやトライアンフ、BSAなど、当時、世界最優秀と言われたオートバイが量産できる体制にあったからです。特にドイツが、オートバイにMG34などの機銃を装備したサイドカーでオートバイ部隊を編成し、連絡や偵察といった補助的な役割でなく、攻撃部隊の最先端として使ったことはよく知られています。またアメリカ陸軍やイタリア陸軍も、かなりの数のオートバイやサイドカーを使用しました。しかし、アメリカの場合は、1941年にジープが登場してからは、サイドカーやオート

バイはごく一部の用途のために少数が残されるだけとなってしまいます。とはいって、ハーレー・ダビットソン社やインディアン社は軍用オートバイ、そしてサイドカーの量産を続け、これらはイギリスやカナダ、ソ連軍など、連合軍各国に送られたのです。

第2次大戦後、軍用としてのサイドカーはほとんどその姿を消したといつていいでしょう。しかし民間用としては、特に古くからの伝統があるヨーロッパを中心として操縦する楽しさにあふれたスポーティな乗り物として、サイドカーは根強く愛され続けています。またサイドカーレースの人気も高く、ヨーロッパ各国を転戦して世界GPレースが行なわれています。

サイドカーワンのオートバイは、その構成からいってオートバイだけの場合や四輪の自動車とくらべるまでもなく、基本的にアンバランスな性質を持っています。このため加速中はサイドカー側に、そして減速中はオートバイ側にまがり気味になり、またコーナーリングでの動きも左右では違ってくるといったクセを持つことになりますが、それだけに、オートバイだけの場合や自動車にはない操縦の面白味を持つと言えるでしょう。

## ハーレー・ダビットソンとサイドカー

現在、アメリカ唯一のオートバイメーカーであり、また世界的に見ても最も長い歴史を持つオートバイメーカーの1つであるハーレー・ダビットソン社は、1901年、ウイリアム・S・ハーレーとアーサー・ダビットソンの2人の若者がオートバイの製作を計画したことから始まります。やがてダビットソンの2人の弟ウイリアムとウォルターも計画に加わり、1年後には1号車が完成、その翌年には小さなながらも製作所を建て、1907年には会社組織となって正式にハーレー・ダビットソン・モーター・カンパニーが設立されます。以後ハーレーは順調に発展していくことになります。新技術の開発も意欲的に行なわれ、1909年には、現在ではハーレーの伝統ともなっているV型2気筒エンジンを初めて搭載したモデルを発表、1914年にはドラムブレーキ、2速ミッション、1915年には3速ミッションの開発に成功するなど、技術力、品質の高さでも確固とした信頼を得るようになっていくのです。2つの大戦もハーレーにとって大きなプラスとなりました。第1次大戦にアメリカ

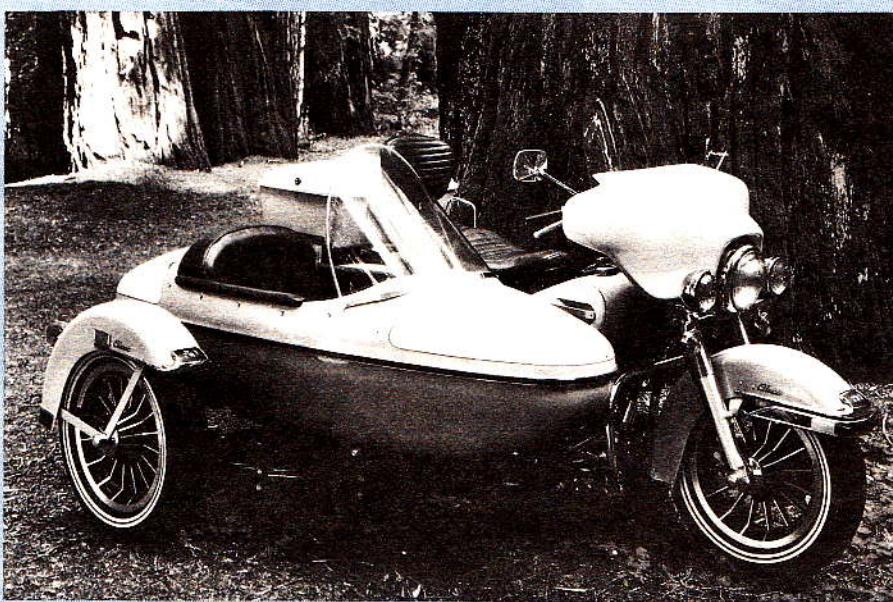
が参戦してからはハーレーの生産量は18000台にはね上り、また第2次大戦では軍用型のWLA45は9万台もが生産されたのです。この両大戦間の時期から、ハーレーはV型2気筒エンジン搭載車を主力に生産、次々にヒットモデルを生み出すことになります。そして大戦後は、125ccの2サイクル車やスクータなども開発して小排気量車の分野にも進出、一時は1200cc車を頂点とするフルラインナップを築きますが、現在は、いずれもV型2気筒の1000、1200、1340ccエンジン搭載車にラインをしづらせて、個性あふれるオートバイを生産しているのです。

こうした長い歴史を持つハーレー・ダビットソン社は、早くから自社のオートバイに装備するサイドカーも用意してきました。乗用だけでなく、パッケージトラックと呼ばれる荷物運搬用のサイドカーもあり、タンクローリーのようなガソリン運搬用さえ作られるなど、広く使われたのです。もちろん、交通機関として、そして荷物の輸送手段としてのサイドカーの人気は、自動車の普及によって次第に下火になっていきます。しかし、単に実用だけではなく、楽しみとしてのサイドカーの人気は根強く、ハーレーは戦後もその代表的なモデルにサイドカーを用意してきました。1979年、それまでのFLH1200エレクトラ・グライドにかわるハーレーのトップモデルとして、FLH80クラシックがデビューしましたが、もちろん、このクラシックにも専用のサイドカーが用意されていました。

## FLH80クラシックサイドカー

1978年、ハーレーは、創立75周年を記念して、エレクトラ・グライドをベースとして、1340ccのV型2気筒エンジンを搭載したモデルを限定生産しました。そしてこの1340ccエンジンを持つ80シリーズが翌年から量産車種に加えられ、FLH80クラシックが登場することになります。

80の数字は排気量80立方インチ(1340cc)を表わしますが、全長2m40cm、重量340kg以上、その風格あふれる姿からキングオブザバイクと呼ばれるクラシックは、エレクトラ・グライドをよりデラックス化したものと言え、原形は1941年のモデル74(1200cc)にまでさかのばることができます。そして年ごとに改良が加えられて現在の姿となったのです。従ってクラシックは基本的に同じデザインを長い間にわたって熟成した末に生み出されたオートバイであり、当然ながらその内容に目新しいところはありません。また性能的にも、71馬力と言われるエンジン出力、170km/h前後と言われる最高速度は、最新のビッグバイクに較べればかなり低い数字となっています。しかし、クラシックは、あくまでも快適なロングツーリングのために作られたオートバイであり、その意味からはこの性能は十分以上と言えるでしょう。このクラシックに装備されるサイドカーは、全長約2mの大型のもので、オートバイと同様、その名のようにクラシカルな2トーンカラーで仕上げられているのが特徴です。またオートバイの前後輪と同寸法のホイール、タイヤが使われていることも特徴でしょう。鋼管で構成されるフレームは、ボルトジョイントなどを介して3ヶ所でオートバイのフレームにボルト止めされ、オートバイを含めての全幅は実に1m80cm以上になります。堂々とした、圧倒的な量感を持つクラシックサイドカーは、オートバイだけのクラシックがキングなら、まさに「王の中の王」と言えるに違いありません。



写真協力  
雑誌、月刊  
オートバイ



作る前にかならず  
お読み下さい。

★お買い求めの際、また組立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組立てを始められた後は、製品の返品、交換などには応じかねます。  
★このセットには接着剤が含まれていません。接着にはプラスチックモデル用接着剤、タミヤセメントを別にお求め下さい。

★キットの組立てに入る前に、あらかじめ説明文をよく読んで下さい。

★ニッパー、ピンセット、ナイフ、ドライバー等の工具を用意して下さい。

★メッキ部品を接着する時は、必ず接着面のメッキをはがして下さい。

●これは塗装指示のマークです。

組立図中とP20のペイントティングに塗装指示がしてあります、又ページごとのペイントティングを参考にして塗装を楽しんで下さい。

★塗料は、必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

組立図中の青く印刷されている所は、接着部分です。

## PAINTING

### 《塗装するポイント》

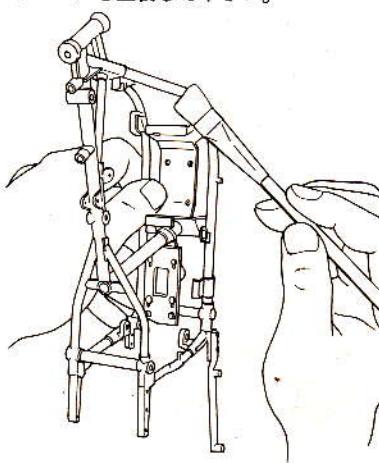
同じ色に塗る部品は出来るだけ組立ててから塗装するのがコツです。

接着剤のはみだし、合せ目のくるいはよくヤスリをかけてから塗装します。

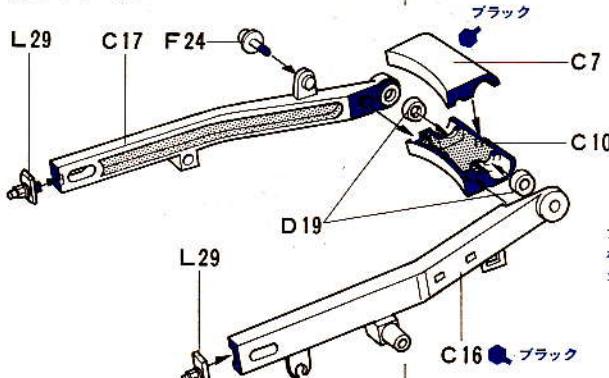
小さなビス1本にまで気をくばって下さい。すばらしい完成をお約束します。

### 《フレームの塗装》

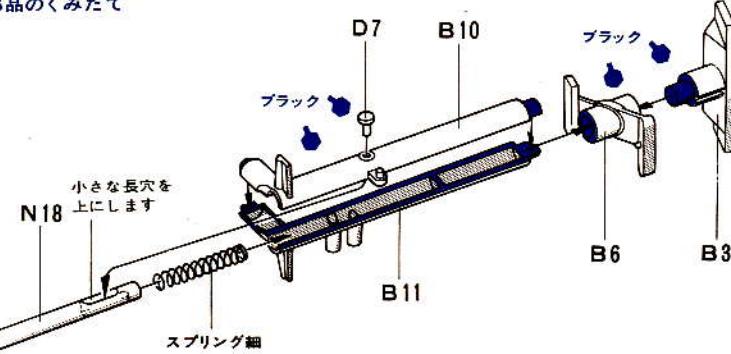
黒い部品に黒い色を塗ります。ていねいに塗り残しのないように、半分づつフレームを塗装して下さい。



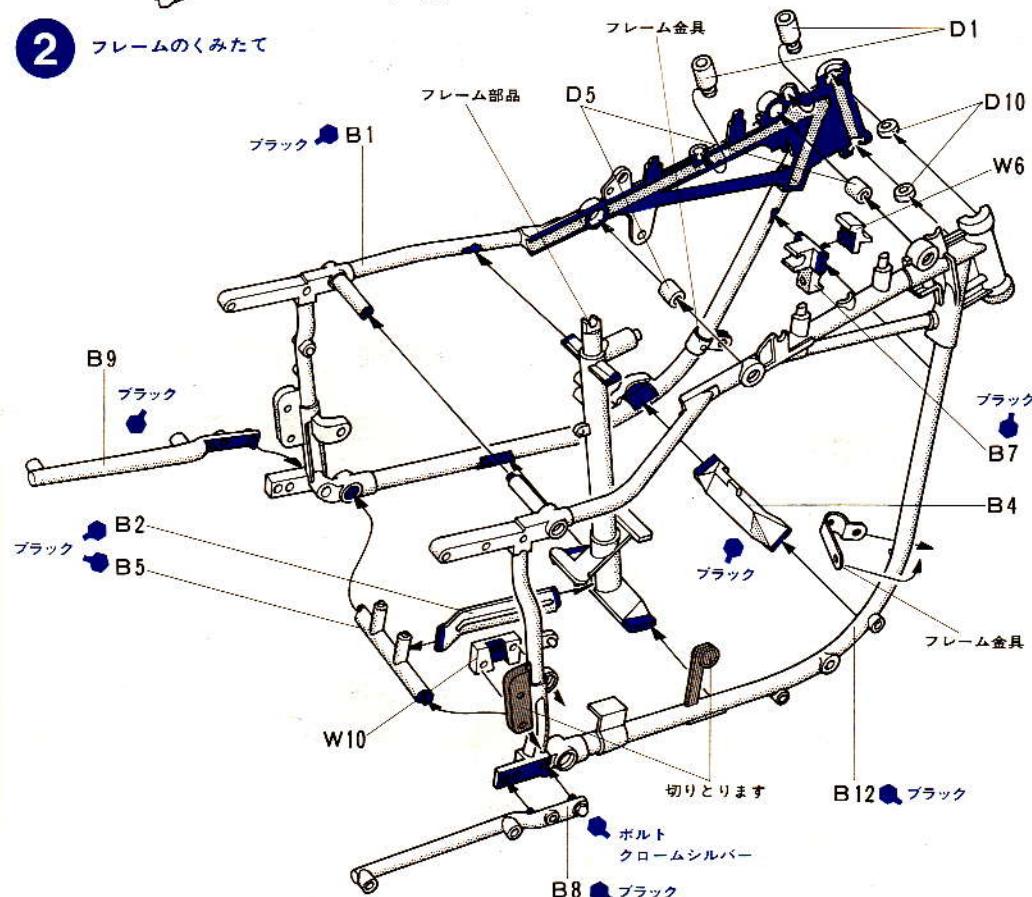
### 《リヤフォーク》



### 1 フレーム部品のくみたて

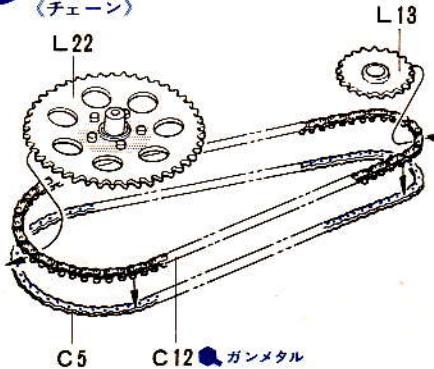


### 2 フレームのくみたて

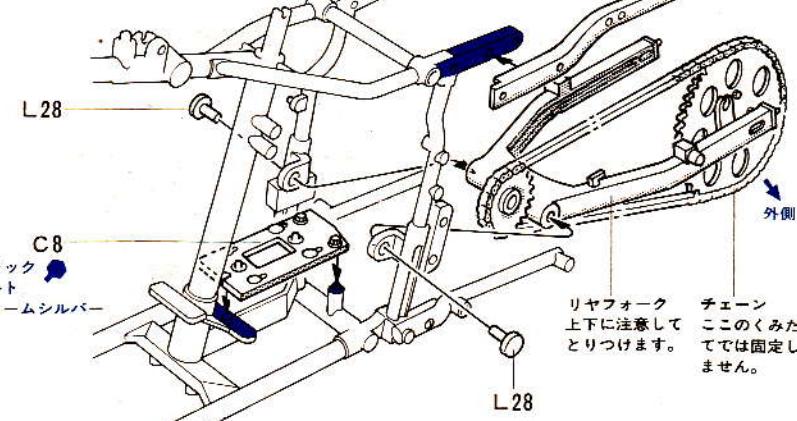
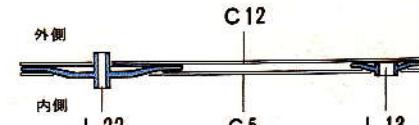


### 3 チェーンのくみたてととりつけ

#### 《チェーン》

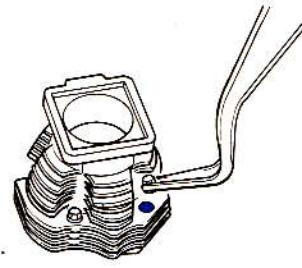


#### 《チェーンのくみたて参考図》



## 〈部品の接着〉

★小さな部品の接着にはピンセットを使用するときれいに仕上ります。

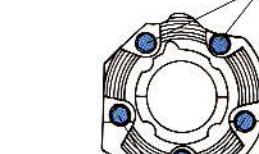


## 5 〈シリンダーのくみたて〉

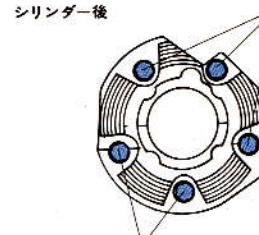
### 〈F13の接着〉

シリンダー前

F13

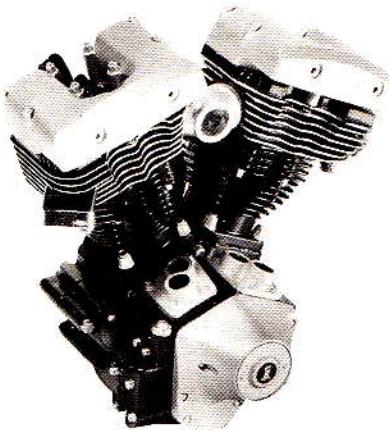


シリンダー後  
F13



F13

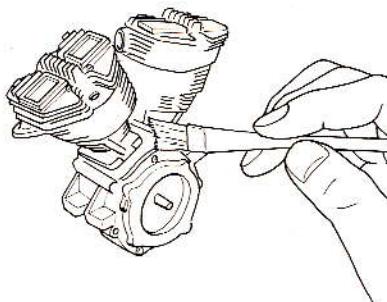
## 7 〈エンジンのくみたて〉



## PAINTING

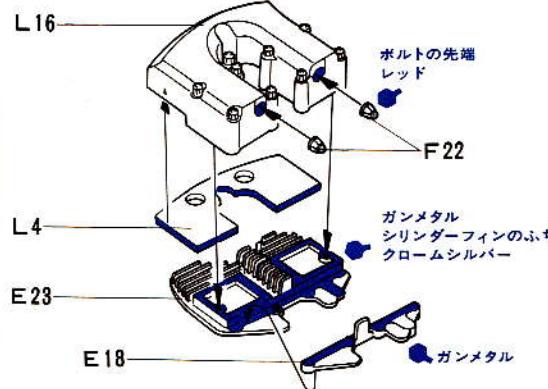
### 〈エンジンの塗装〉

指定された色で塗装します。毛先のかたい筆を使ってこすりつけるように塗るとよいでしょう。

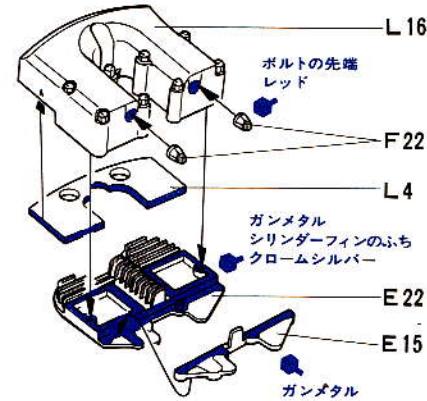


## 4 タペットカバーのくみたて

### 〈タペットカバー前〉

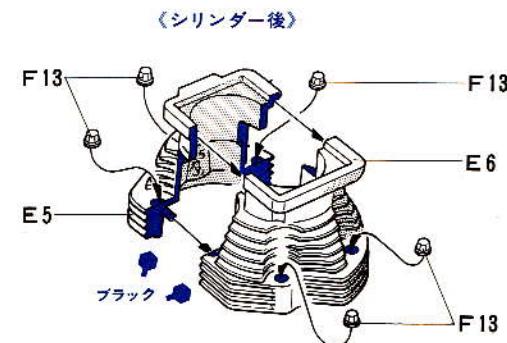
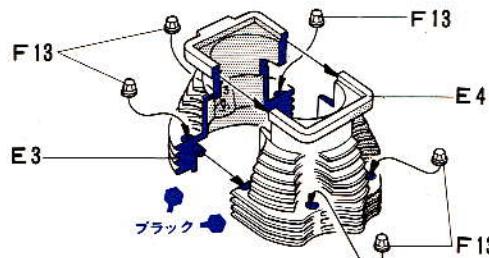


### 〈タペットカバー後〉



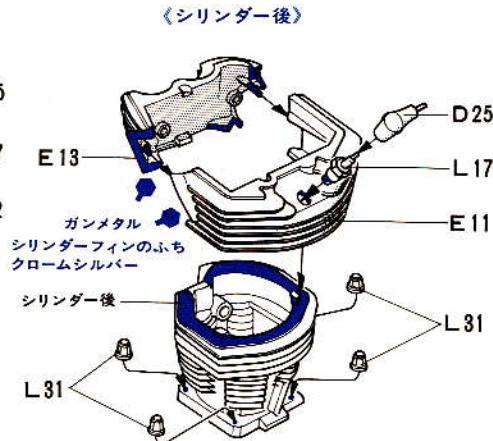
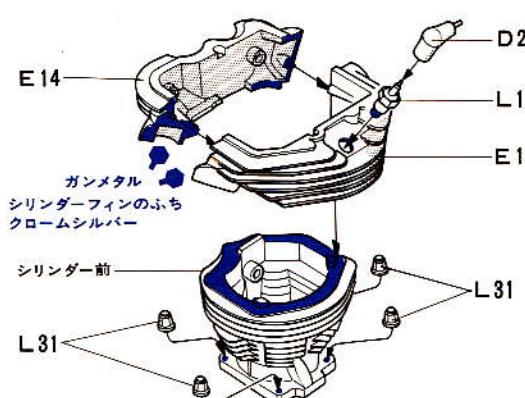
## 5 シリンダーのくみたて

### 〈シリンダー前〉



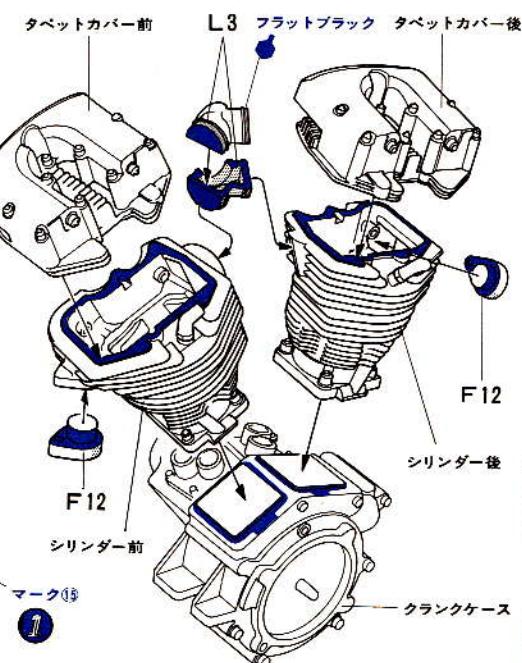
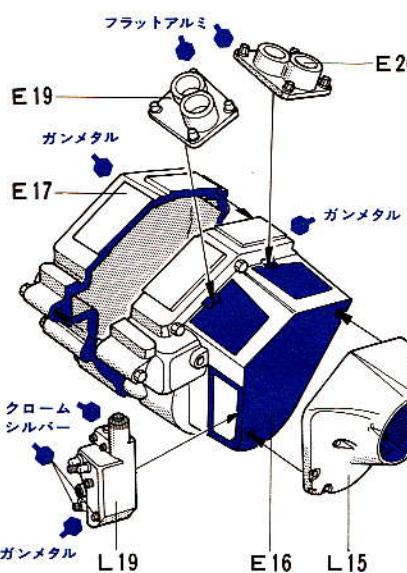
## 6 シリンダーヘッドのとりつけ

### 〈シリンダー前〉



## 7 エンジンのくみたて

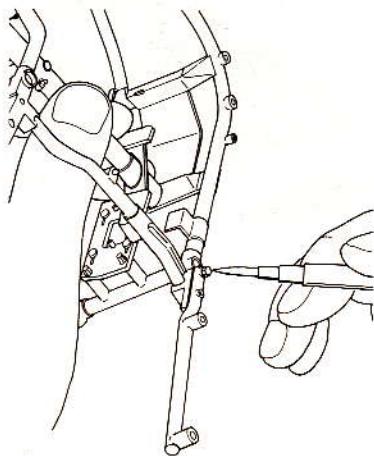
### 〈クランクケース〉



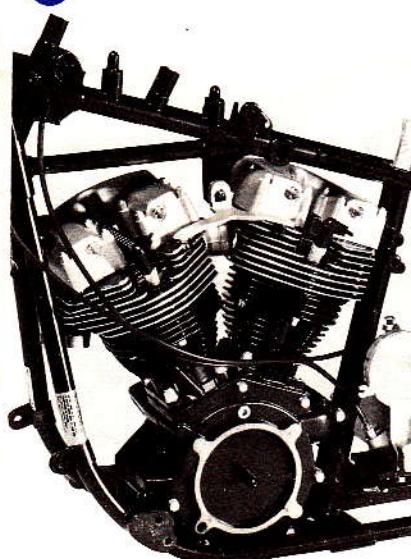
## PAINTING

## 《ボルトの塗装》

フレームやエンジンに使われているボルトはすべてクロームシルバーです。全体のアクセントとなりますからていねいに塗装して下さい。

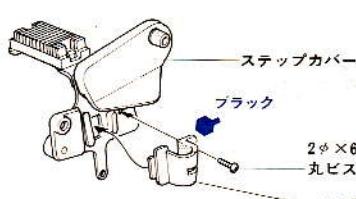
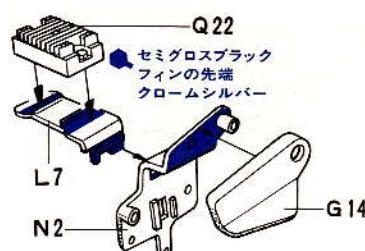


9 《エンジンのとりつけ》



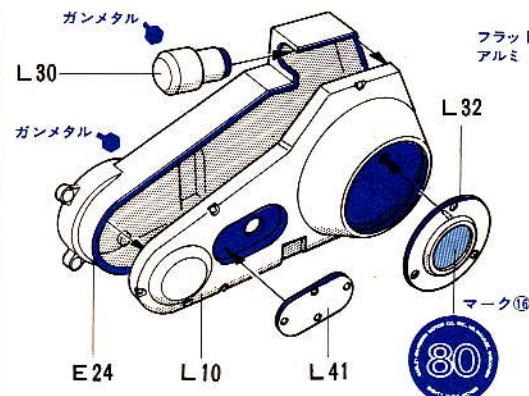
10 《一次伝導チューンカバー》

## 《ステップカバーのくみたて》

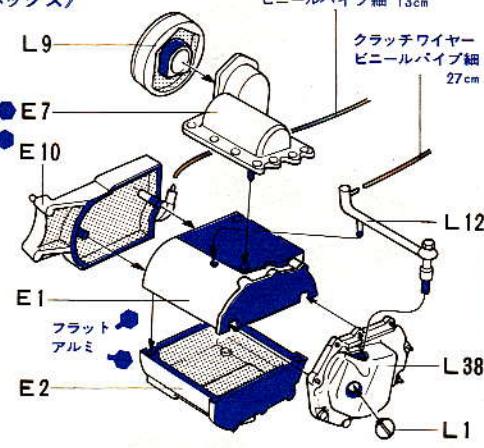


## 8 動力伝達部品のくみたて

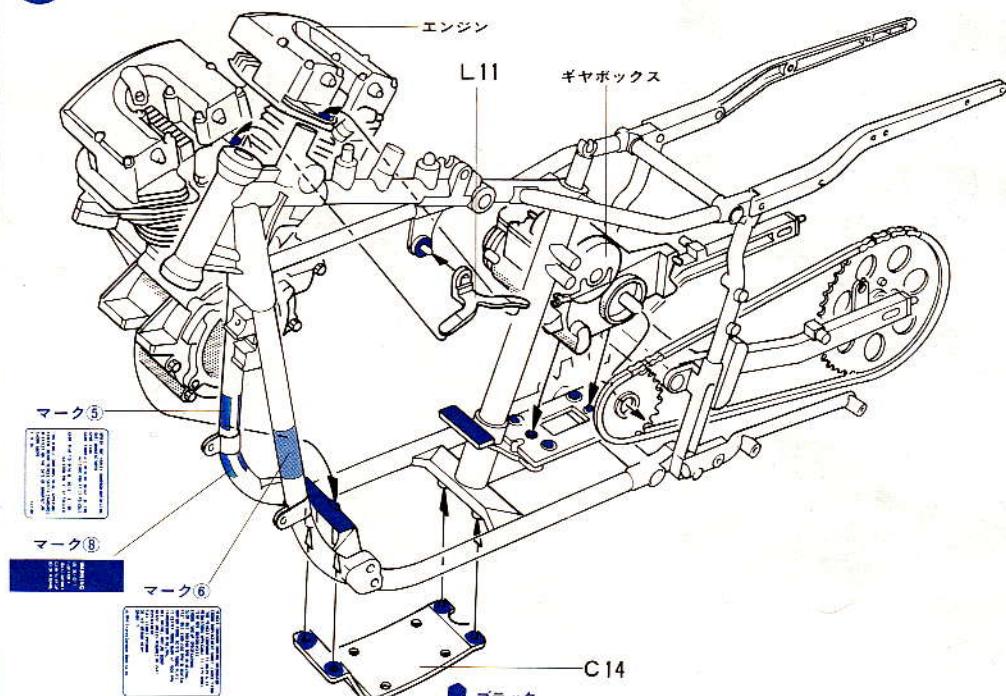
## 《1次伝導チェーンカバー》



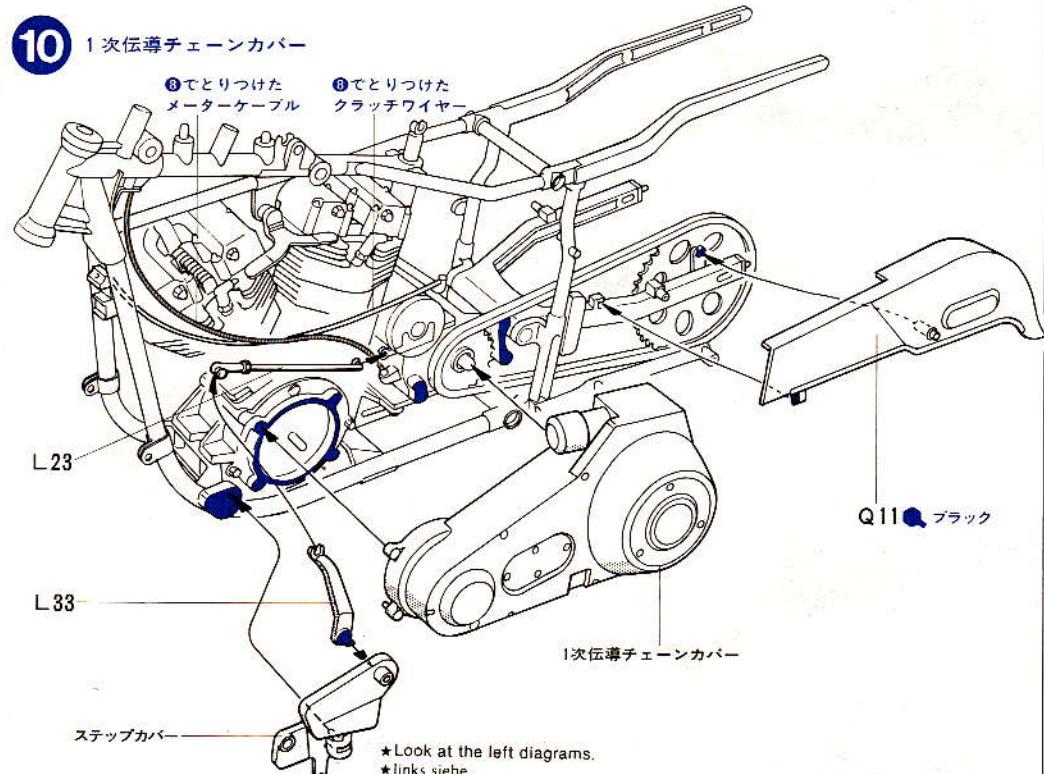
## 《ギヤボックス》



## 9 エンジンのとりつけ



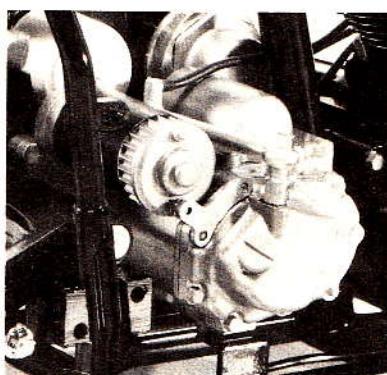
## 10 1次伝導チューンカバー

③でとりつけた  
メーターケーブル④でとりつけた  
クラッチワイヤー

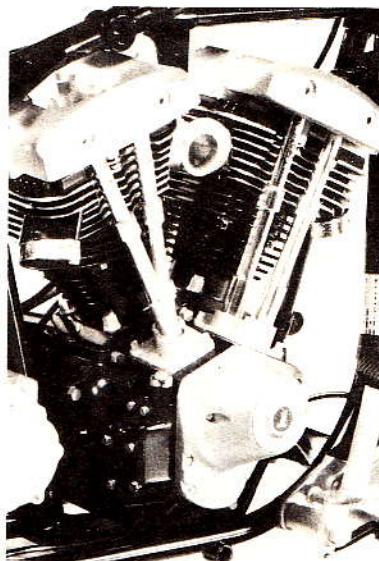
11 《リヤブレーキペダルのくみたて》



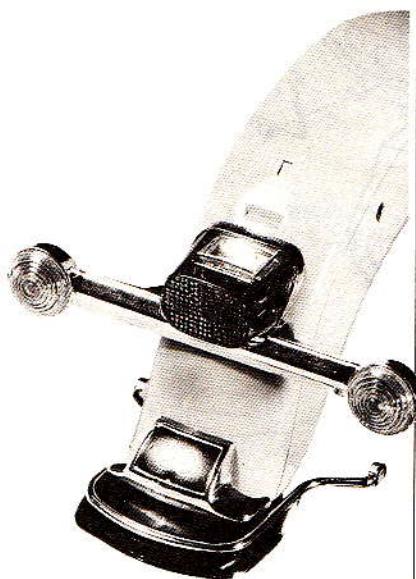
12 《スタートーモーターのとりつけ》  
《L24のとりつけ》



《ブッシュロッドF15のとりつけ》

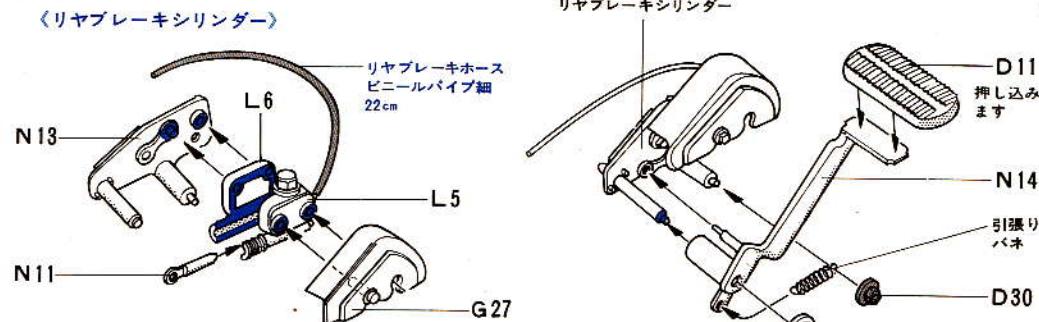


14 《リヤフェンダーのくみたて》

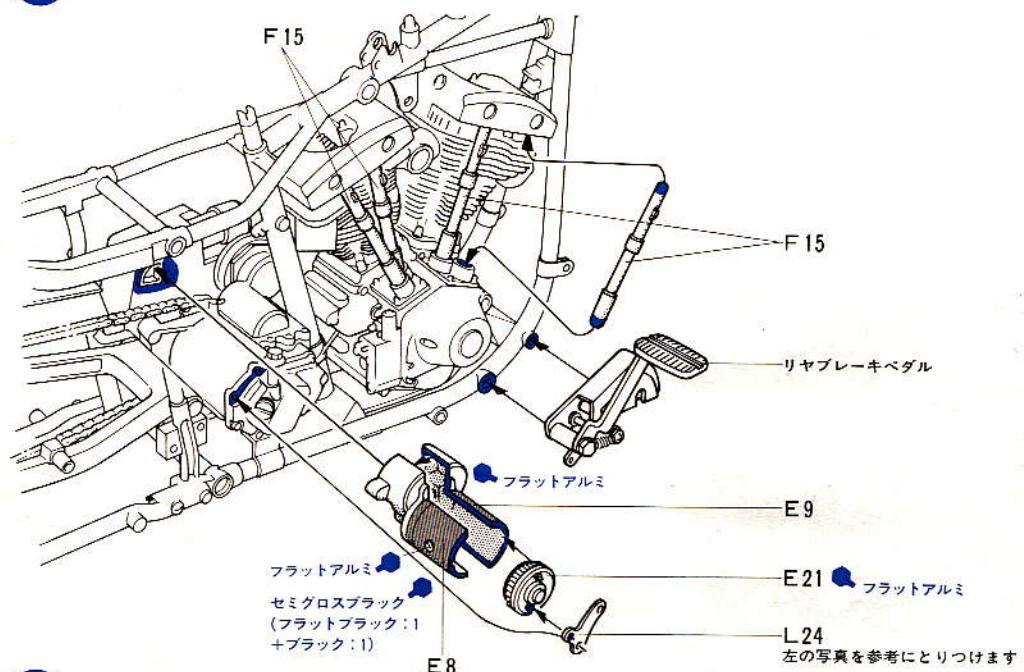


11 リヤブレーキペダルのくみたて

《リヤブレーキシリンダー》

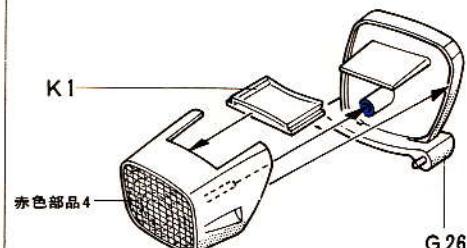


12 スターターモーターのとりつけ

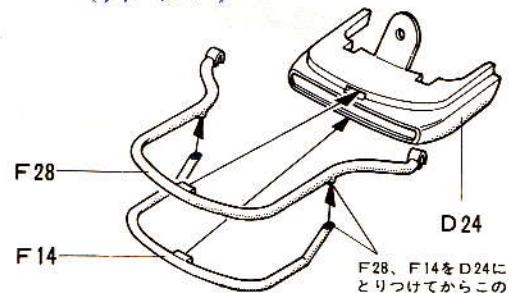


13 リヤフェンダー部品のくみたて

《テールライト》

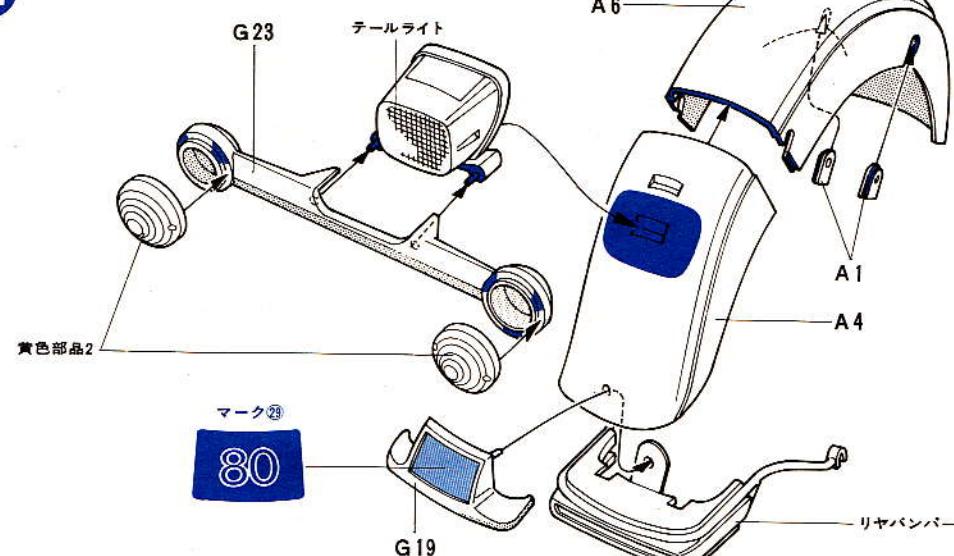


《リヤバンパー》

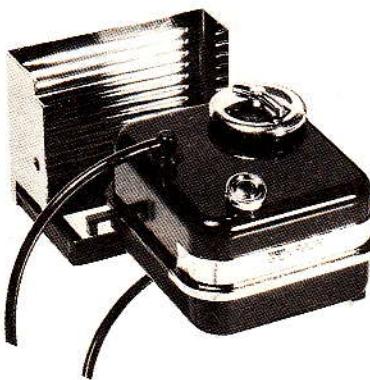


14 リヤフェンダーのくみたて

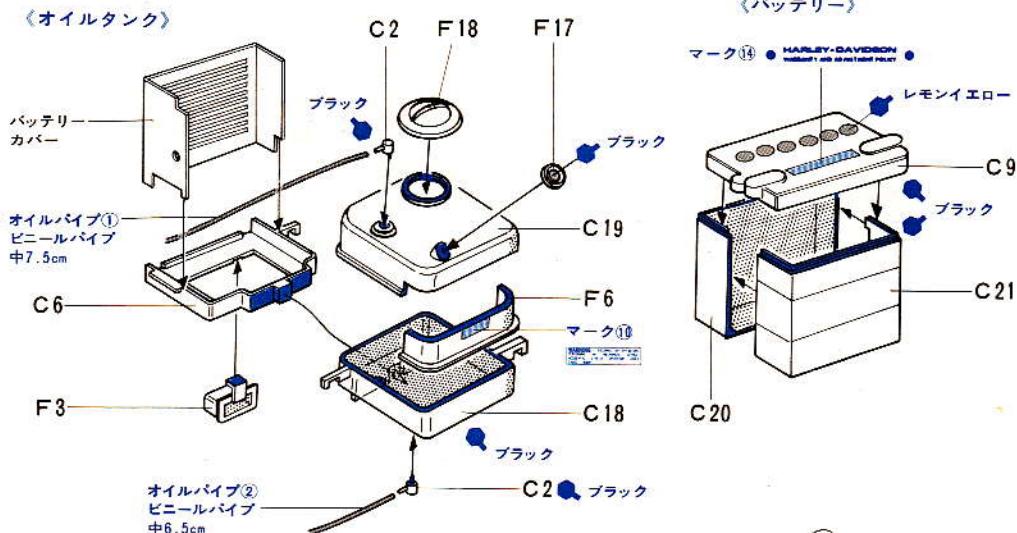
《テールライト》



## 15 《オイルタンクのくみたて》



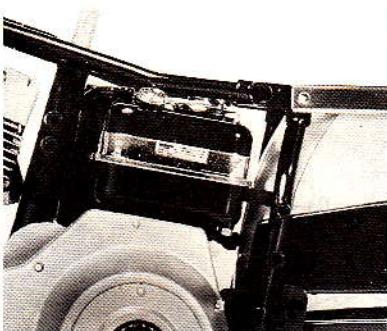
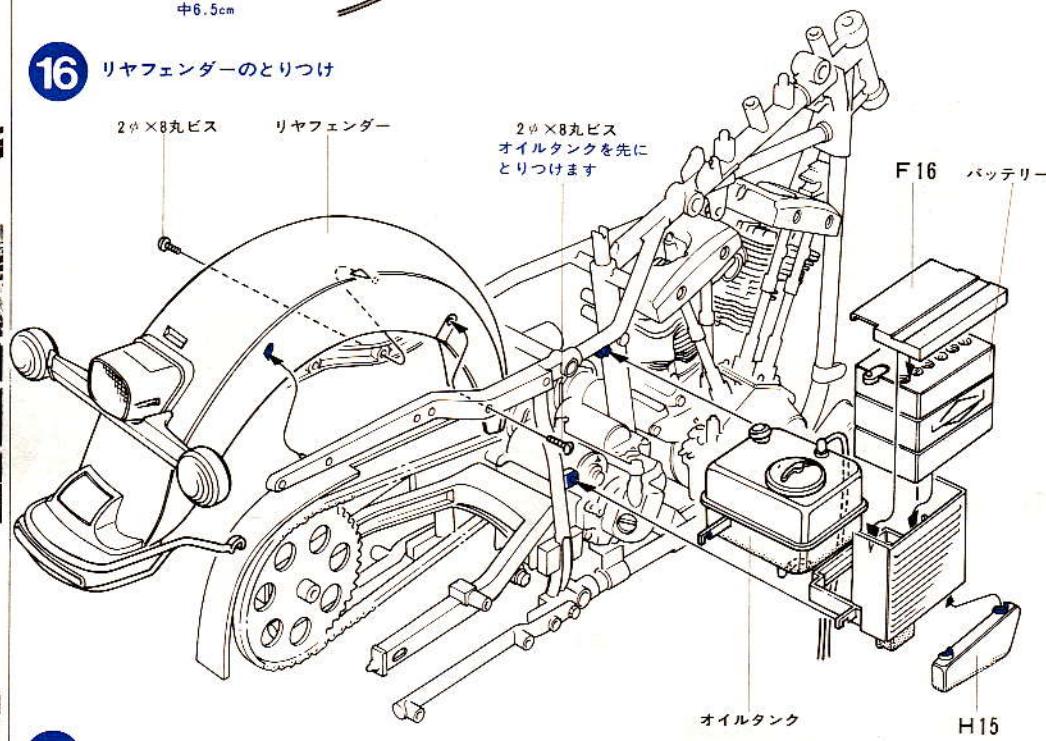
## 15 オイルタンクのくみたて



## 16 《リヤフェンダーのとりつけ》

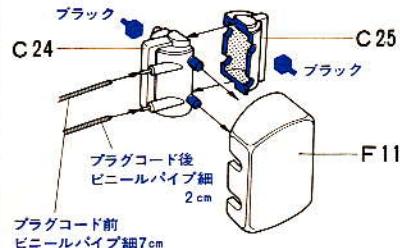


## 16 リヤフェンダーのとりつけ

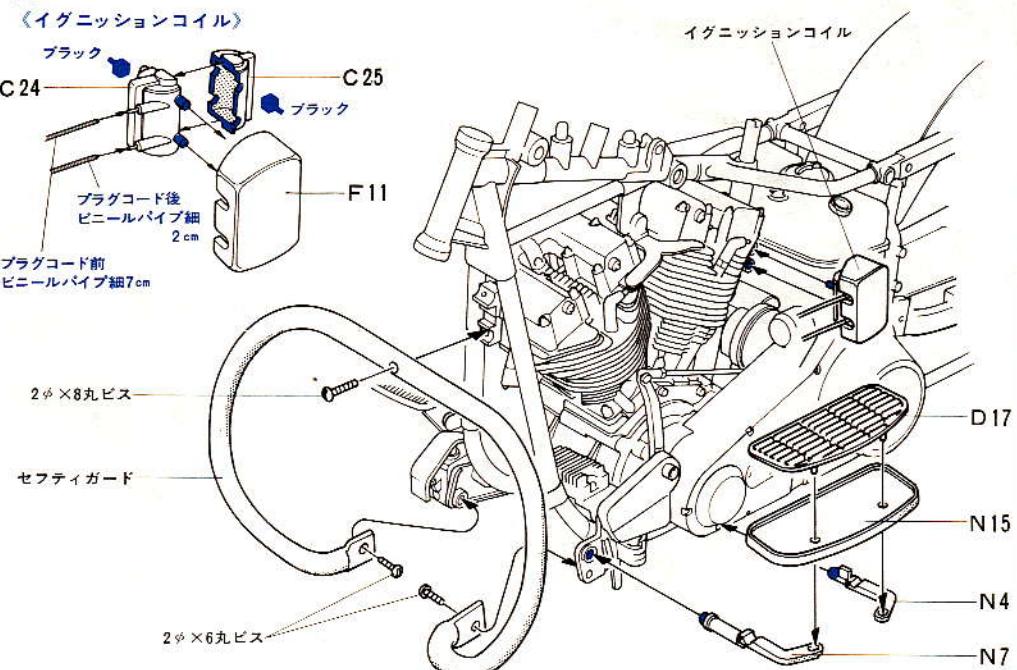


## 17 セフティガードのとりつけ

## 《イグニッションコイル》



## イグニッションコイル

TAMIYA COLOR  
タミヤカラー(エナメル塗料)

筆塗り塗装にぴったり。のびが良く筆ムラ、泡立ちもほとんどなし。つやの良さもエナメル塗料ならでは。もちろんスプレー塗装もOK。

TAMIYA COLOR  
タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレータイプの塗料です。ミリタリーモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。

## TAMIYA CEMENT 40ml



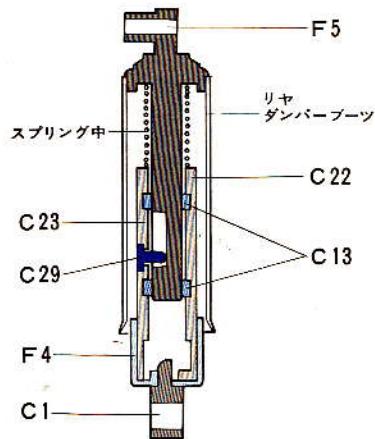
タミヤセメント(ピン入り)

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。

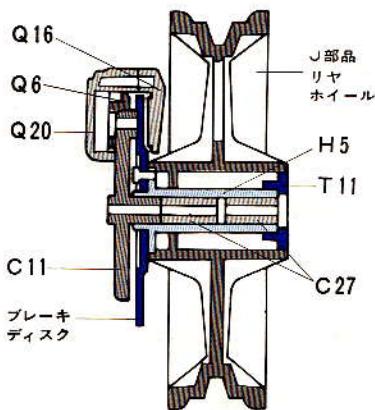


## 18 《リヤダンパーのくみたて》

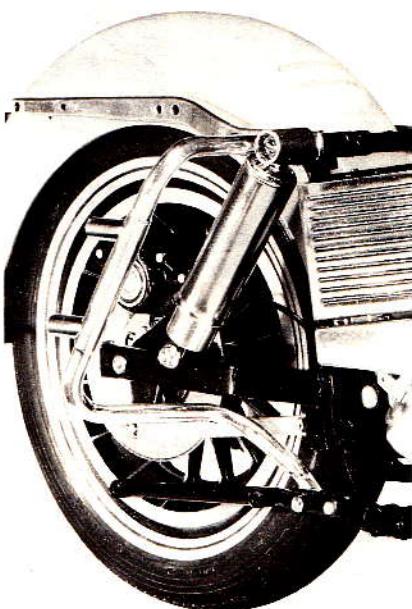
《リヤダンパー断面図》



## 20 《リヤホイールのくみたて》



## 21 《リヤホイールのとりつけ》



タイヤをはめます

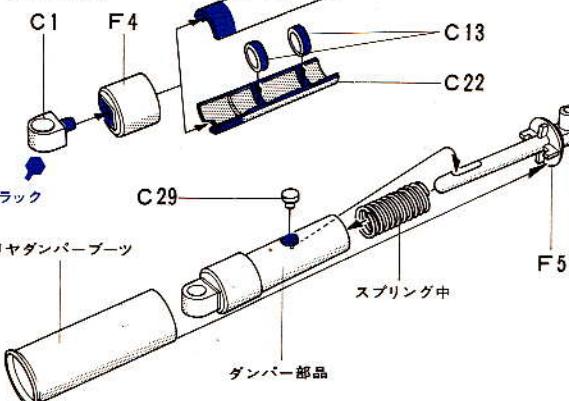
ホワイト

## 18

リヤダンパーのくみたて

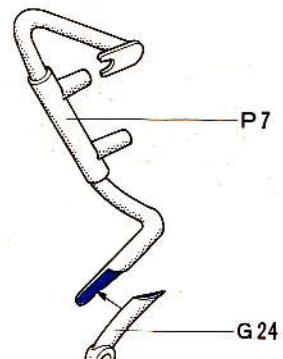
《ダンパー部品》

★2個あります



## 19

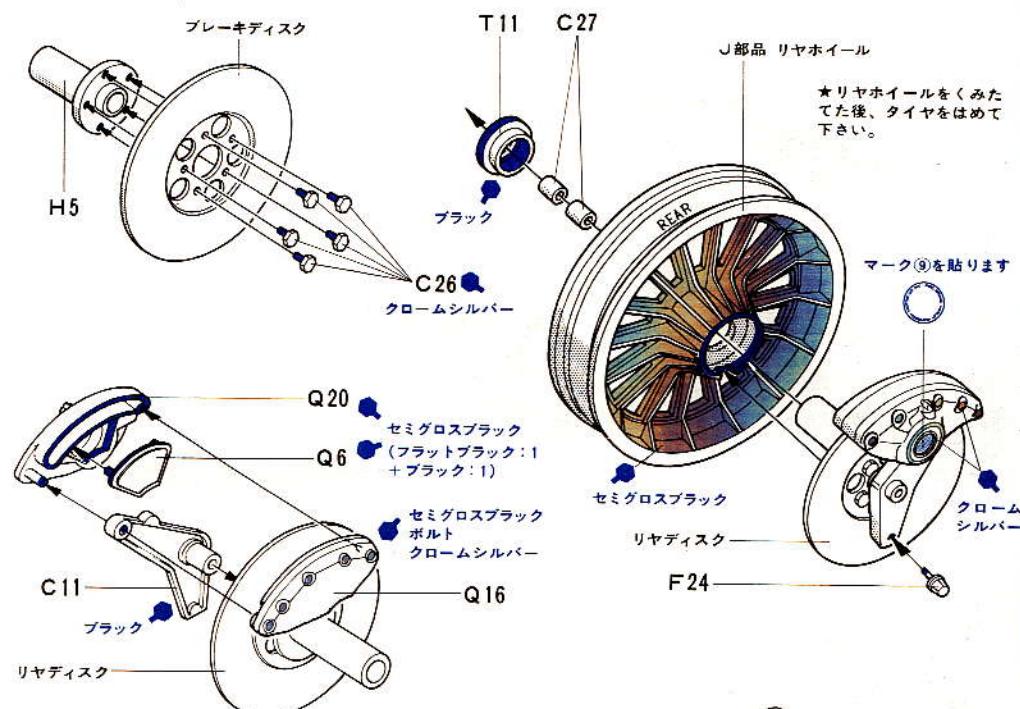
リヤバンパー右のくみたて



## 20

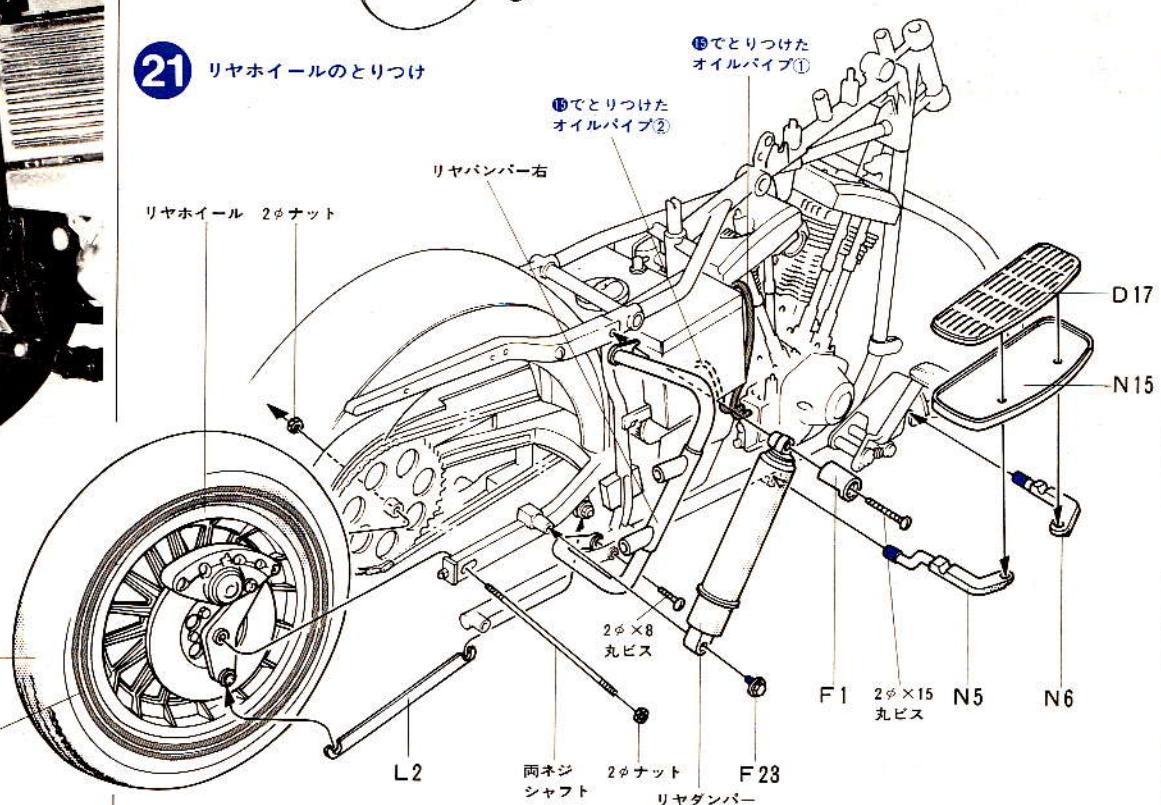
リヤホイールのくみたて

《リヤディスク》



## 21

リヤホイールのとりつけ

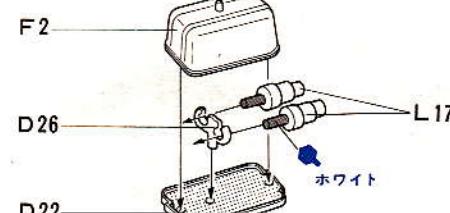


## 22 《スペアプラグケースのくみたて》

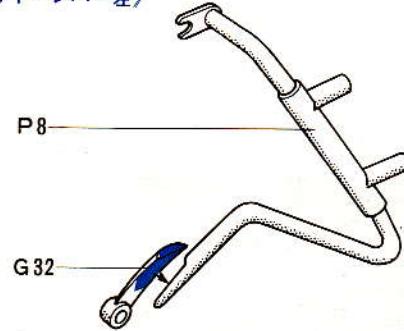


## 22 スペアプラグケースのくみたて

《スペアプラグケース》

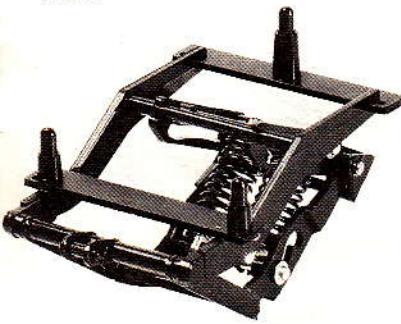


《リヤバンパー左》

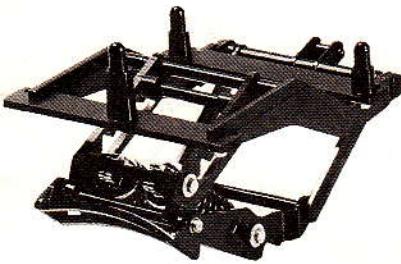


## 23 《サドルフレームのくみたて》

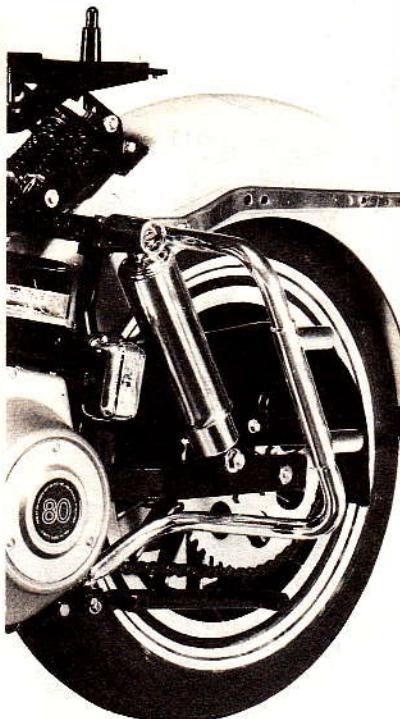
《前側》



《後側》

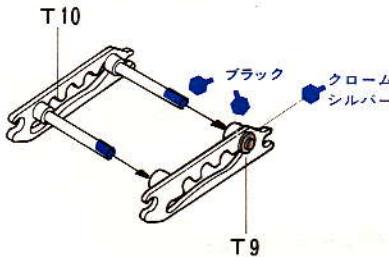


## 24 《サドルフレームのとりつけ》



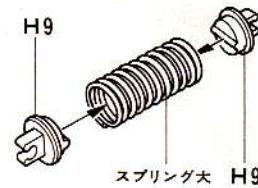
## 23 サドルフレームのくみたて

《サドルフレームA》

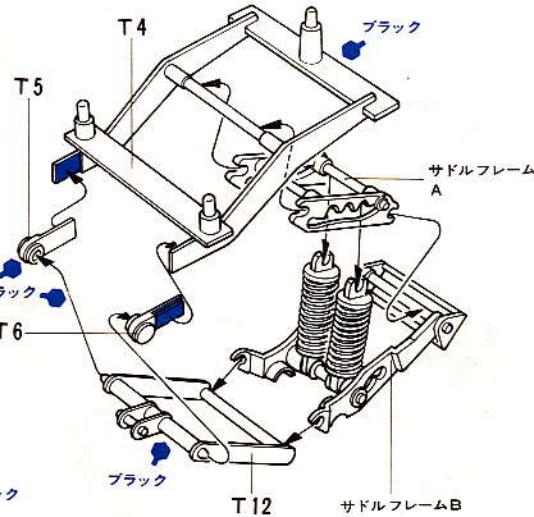


《サドルスプリング》

★2個作ります



《完成》



## 24 サドルフレームのとりつけ

サドルフレーム  
T4の左右の傾きに注意  
してとりつけます。

(T4)

①でとりつけた  
プラグコード前

リヤバンパー左

F1

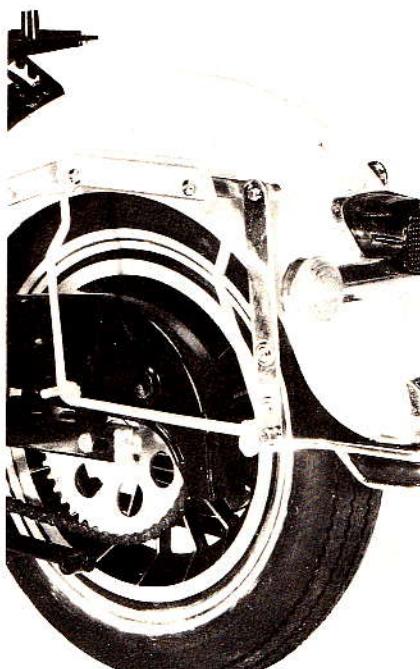
2φ×8丸ビス

スペアプラグケース

リヤダンパー F23 2φ×15丸ビス

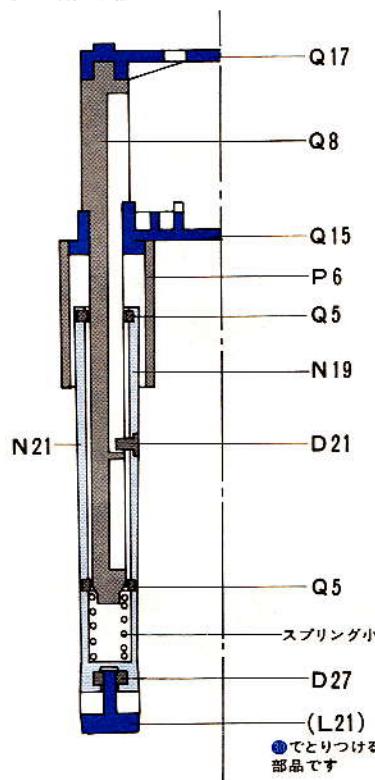
①でとりつけたプラグコード後

25 《サイドバッグステーのとりつけ》

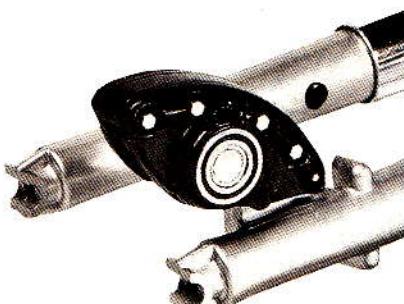


27 《フロントフォークのくみたて》

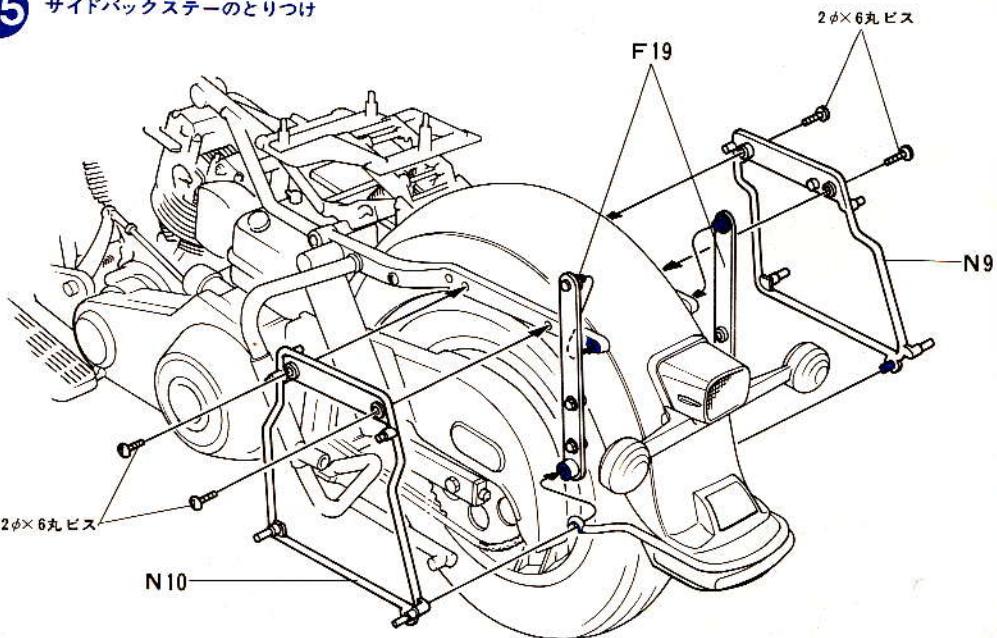
《完成断面図》



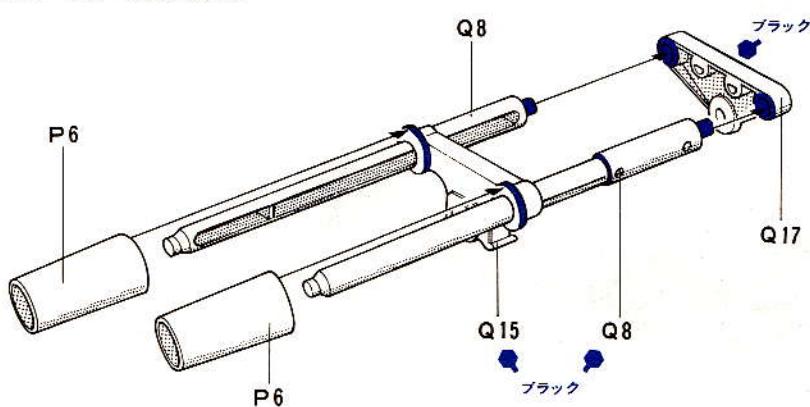
《キャリバーQ16、Q20のとりつけ》



25 サイドバックステーのとりつけ

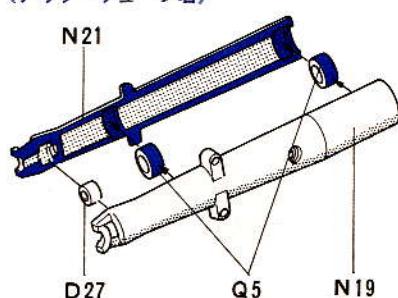


26 インナーチューブのくみたて

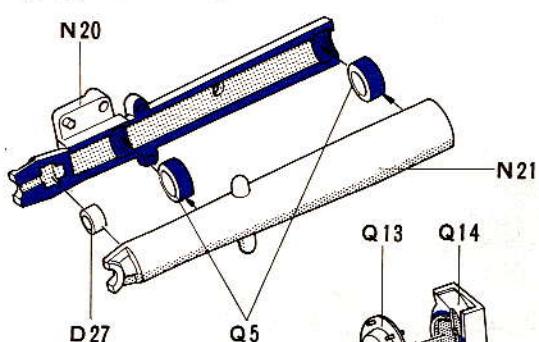


27 フロントフォークのくみたて

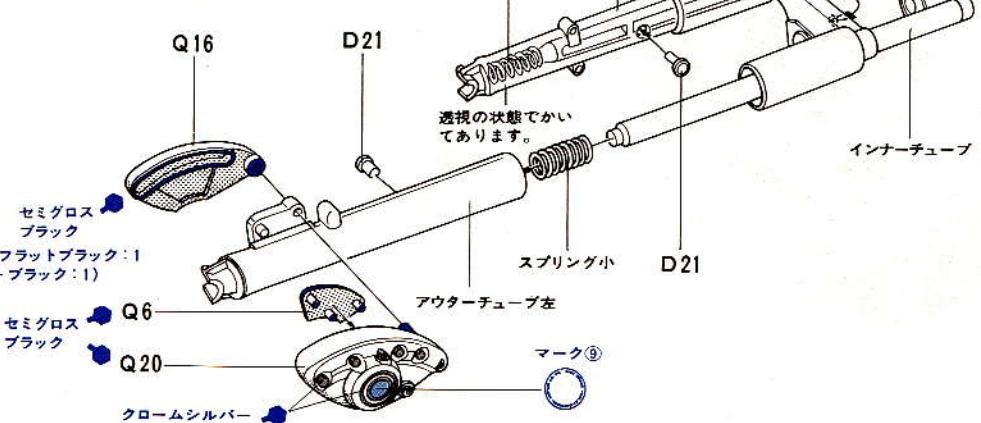
《アウターチューブ右》



《アウターチューブ左》



《フロントフォーク》

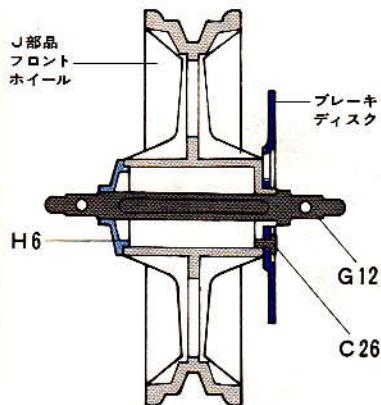


## 28 フロントフェンダーのくみたて

〈フロントバンパー〉

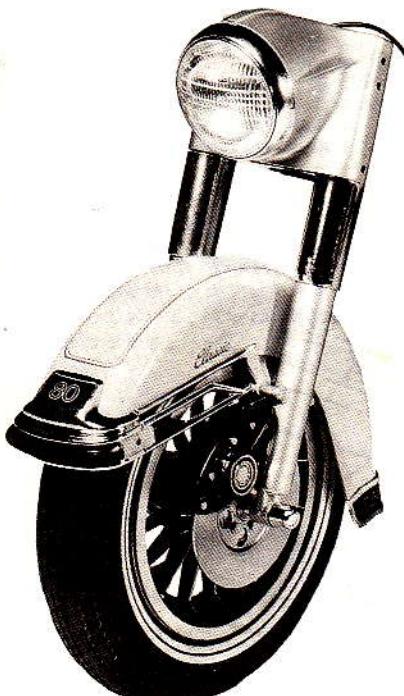
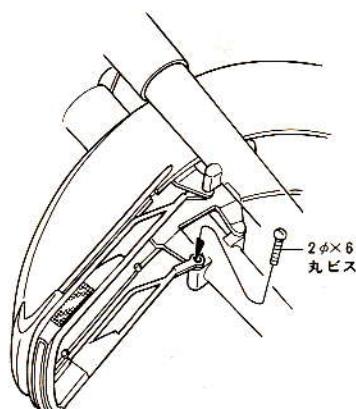


## 29 フロントホイールのくみたて



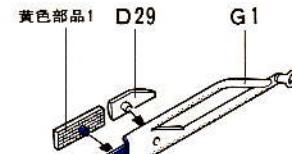
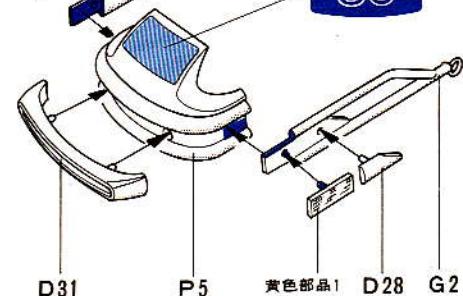
## 30 フロントホイールのとりつけ

〈フェンダーのビス止め〉

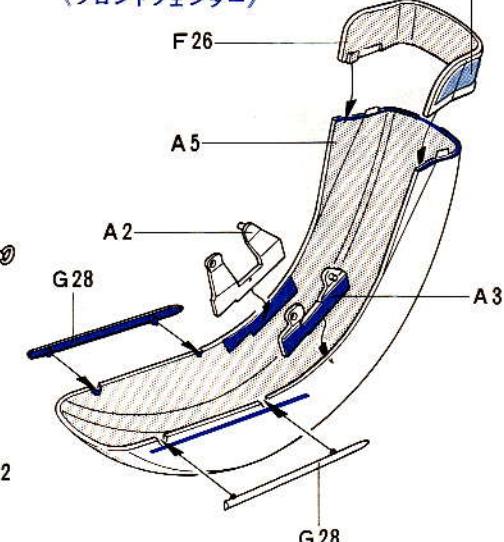


## 28 フロントフェンダーのくみたて

〈フロントバンバー〉

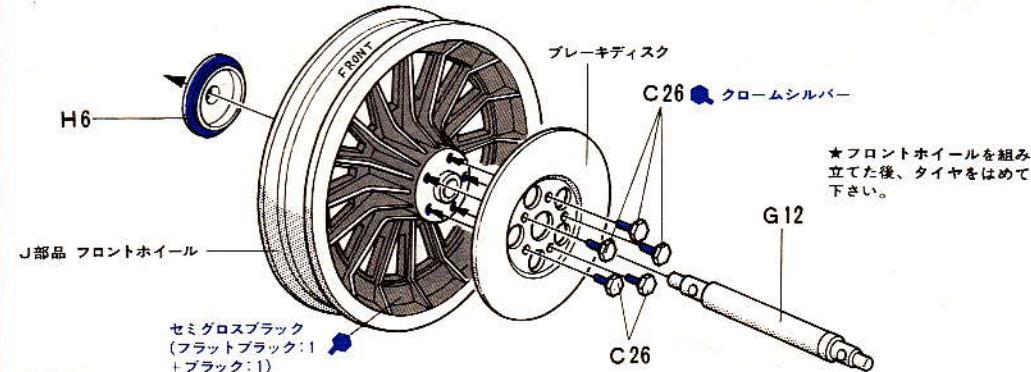
マーク⑩  
80

〈フロントフェンダー〉



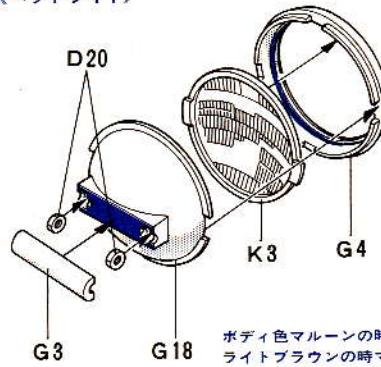
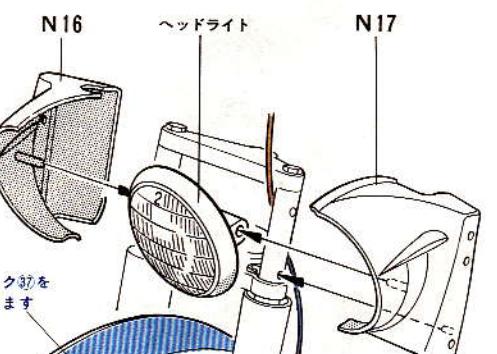
マーク⑪を貼ります

## 29 フロントホイールのくみたて



## 30 フロントホイールのとりつけ

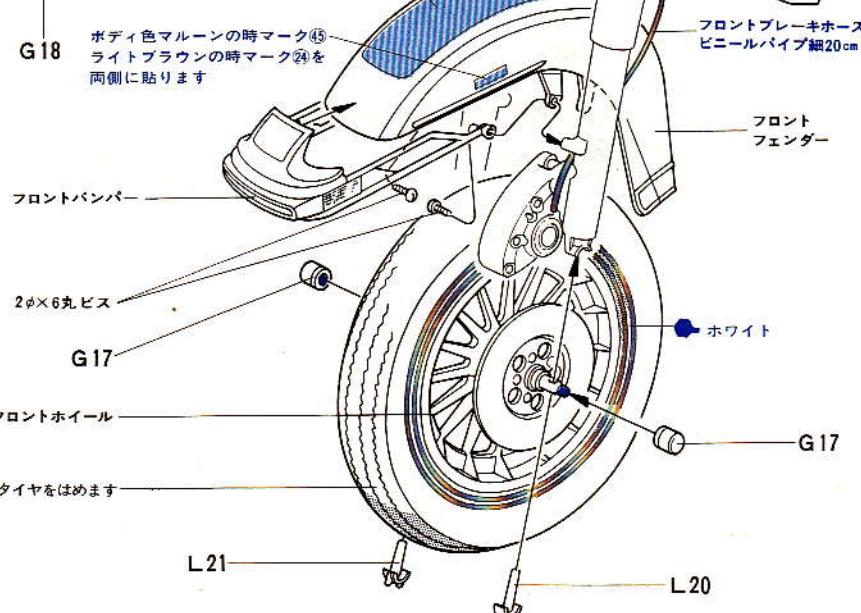
〈ヘッドライト〉

G3 G18 ボディ色マルーンの時マーク⑮  
ライトブラウンの時マーク⑯を  
両側に貼りますマーク⑯を  
貼ります

N16

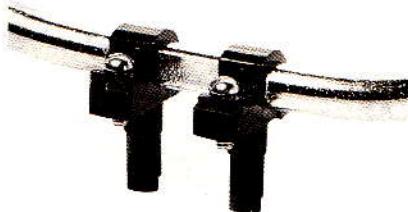
ヘッドライト

N17

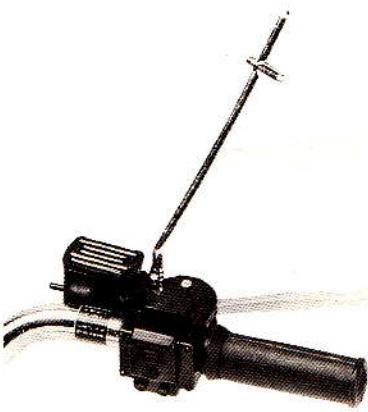


### 31 ハンドルのくみたて

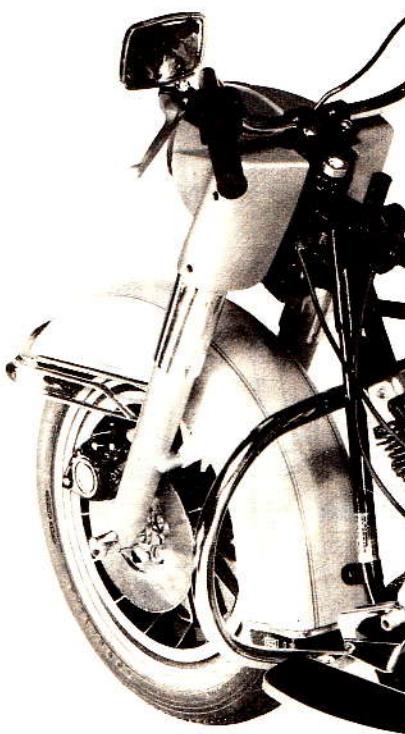
《Q4、Q7のとりつけ》



《マーク⑧の貼りつけ位置》



### 32 フロントフォークのとりつけ



## PAINTING

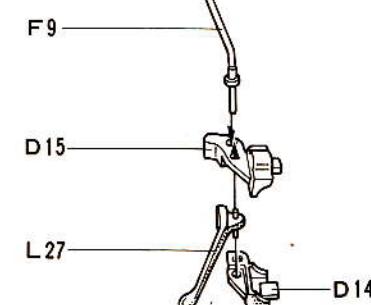
《メッキの補修》

クロームシルバーを使って、メッキのはがれた所を補修して下さい。筆は穂先の長い細筆を使います。



### 31 ハンドルのくみたて

《クラッチレバー》



セミグロスブラック  
フィン  
クロームシルバー

《ブレーキレバー》

F10

C28

D12

D13

L26

2φ×6丸ビス

Q7

ブラック

ハンドルバー

クラッチレバー

D16

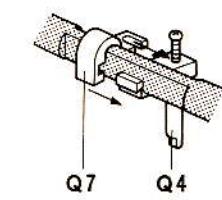
ブラック

マーク⑧

D16

D3

《Q7のとりつけ》

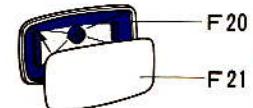


### 32 フロントフォークのとりつけ

①でとりつけた  
クラッチワイヤー



《バックミラー》  
★2個作ります

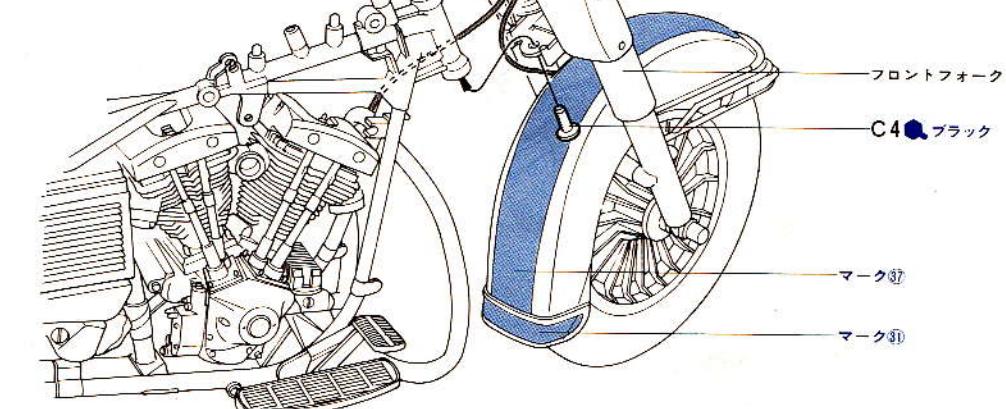


クロームシルバー C3

バックミラー

ハンドル

②でとりつけた  
フロントブレーキホース



### 33 マフラーのくみたて

《マフラー右》

《マフラー左》

H1

H17

H18

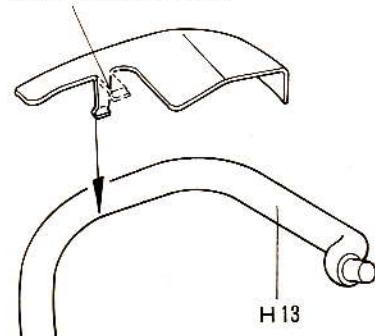
《マフラー左》

H16

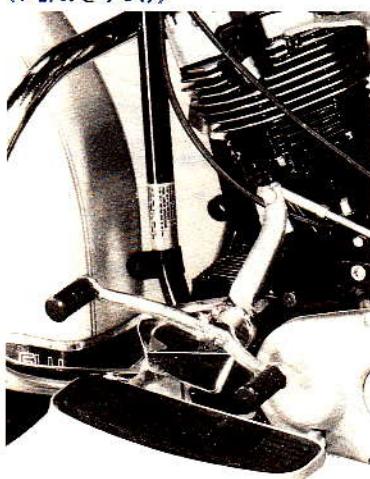
## 34 《左側マフラーのとりつけ》

《エキゾーストカバーのとりつけ》

折り曲げてから押し込みます。



## 《F27のとりつけ》



## 36 《プレートのくみたて》

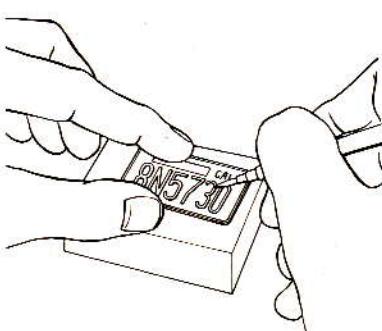
カリフォルニアナンバー



## PAINTING

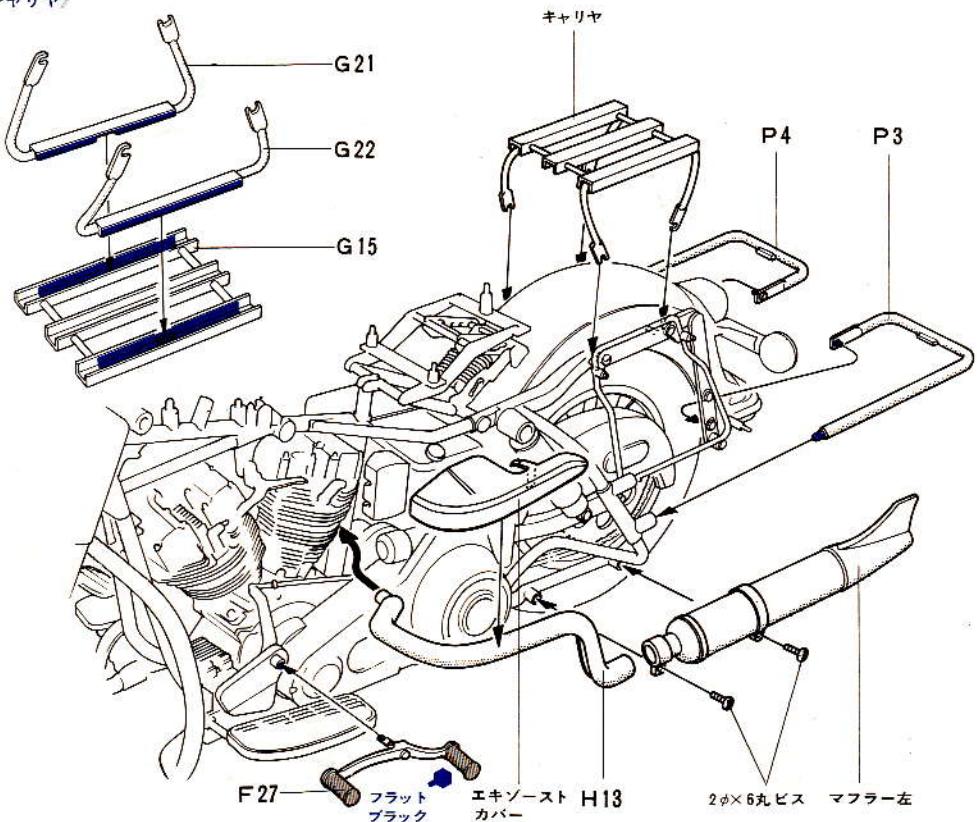
## 《ナンバープレートの塗装》

小さな台を使い、ナンバープレートを固定しておいて、ていねいに塗装するのがコツです。



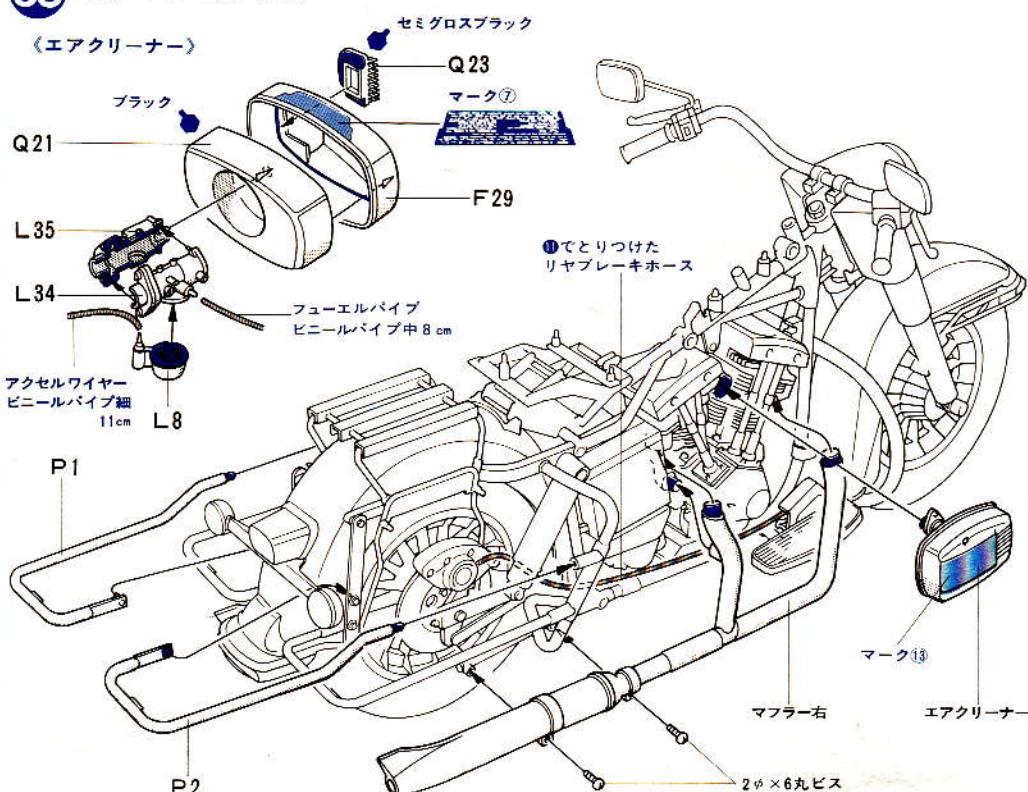
## 34 左側マフラーのとりつけ

《キャリヤ》



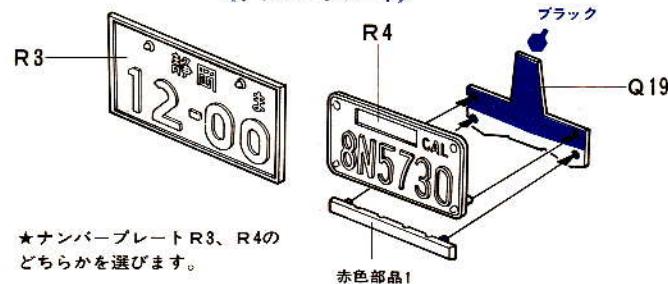
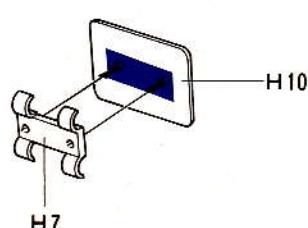
## 35 右側マフラーのとりつけ

《エアクリーナー》



## 36 プレートのくみたて

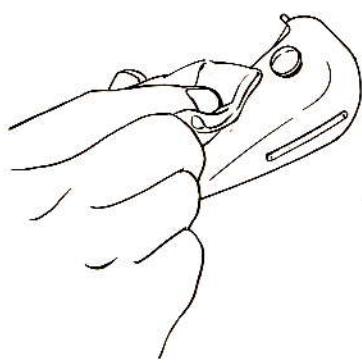
## 《ナンバープレート》

《リヤプレート》  
★2個作ります

# PAINTING

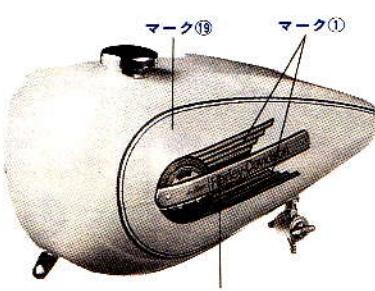
## 《塗装の仕上げ》

塗料がよく乾燥した後、少量の模型用のコンパウンドやワックスで全体をみがけば、美しい仕上がりとなります。

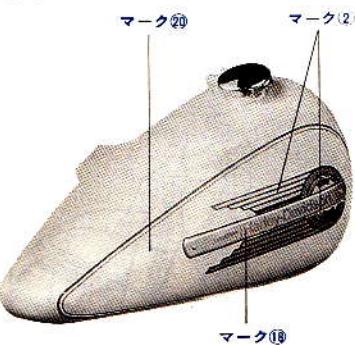


## 38 《フェューエルタンクのくみたて》

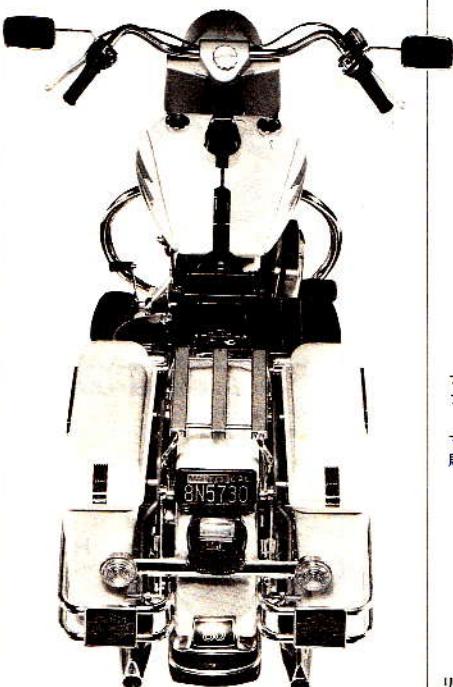
〈左〉



〈右〉

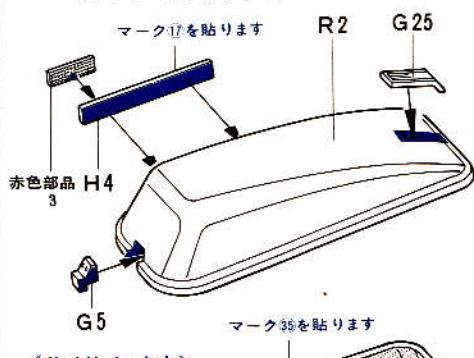


## 39 《サイドバックのとりつけ》

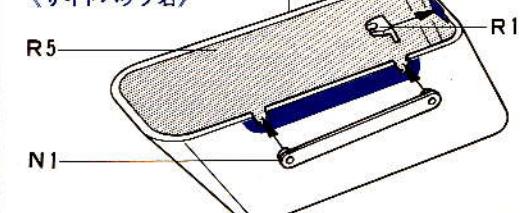


## 37 サイドバックのくみたて

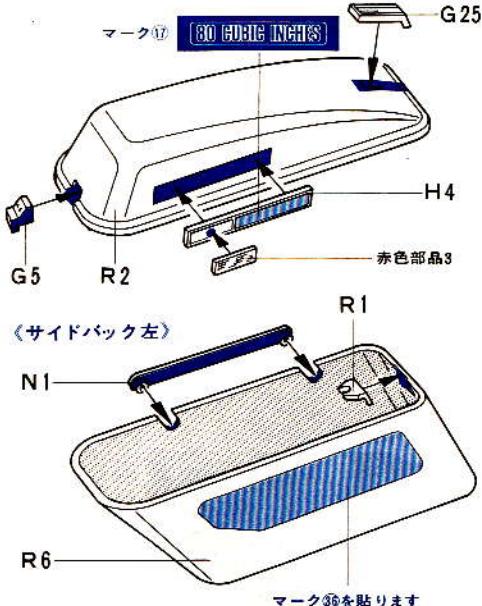
### 《サイドバックリッド右》



### 《サイドバック右》

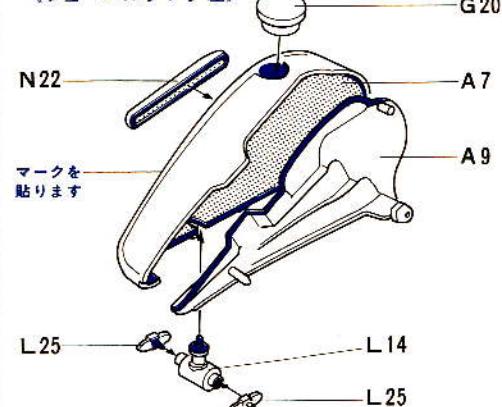


### 《サイドバックリッド左》

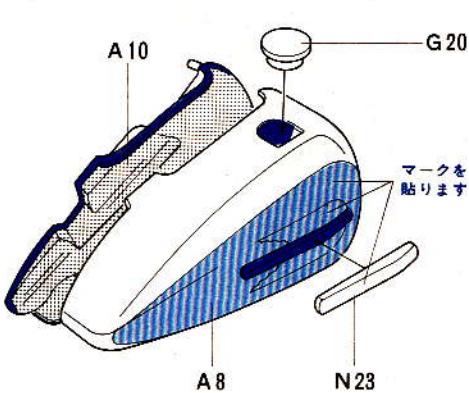


## 38 フューエルタンクのくみたて

### 《フューエルタンク左》



### 《フューエルタンク右》



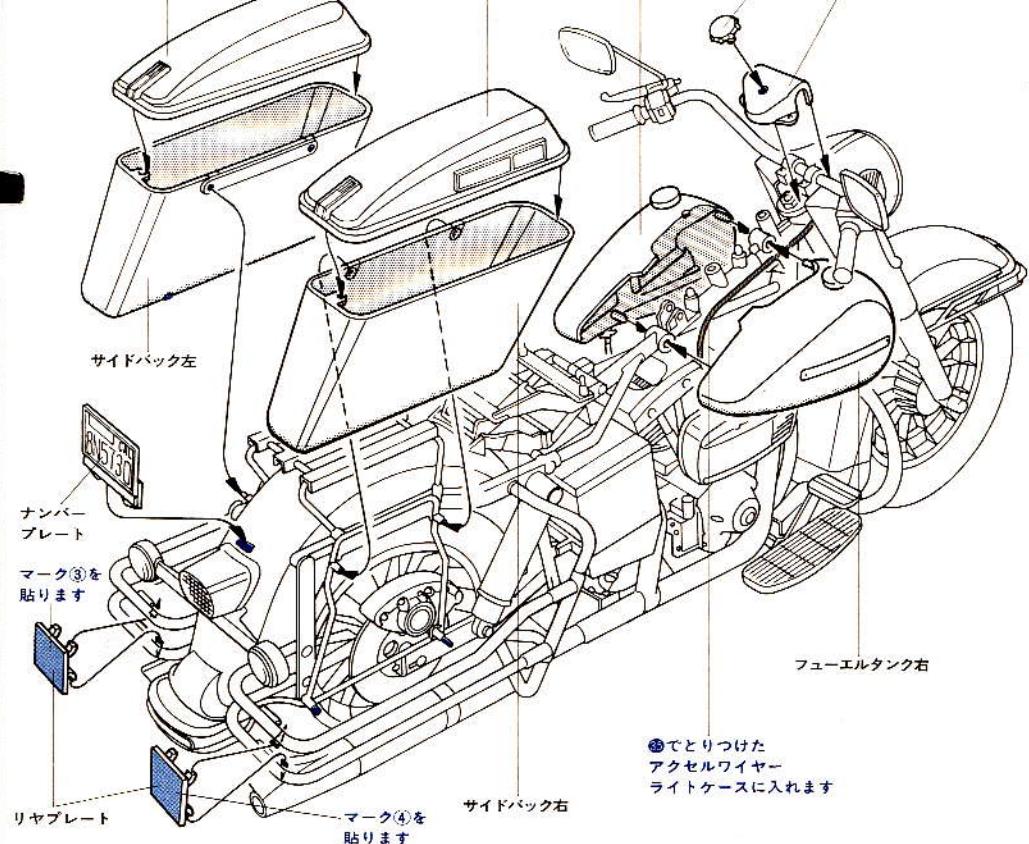
## 39 サイドバックのとりつけ

### サイドバックリッド左

### サイドバックリッド右

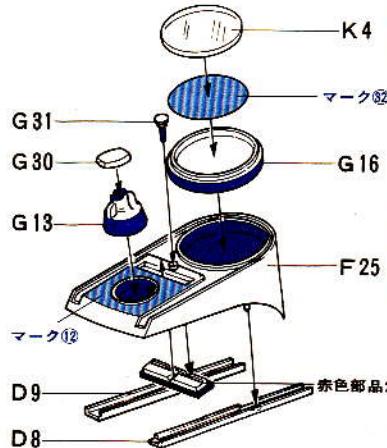
### フューエルタンク左

### フューエルタンク右

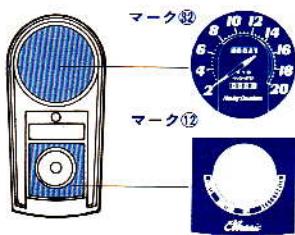


## 40 《メーターのとりつけ》

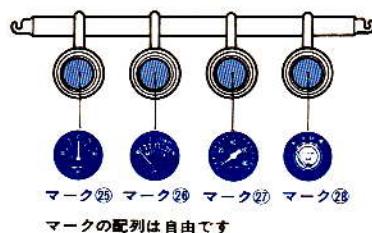
《スピードメーター》



スピードメーター



コンビネーションメーター



## 42 《サドルのくみたて》

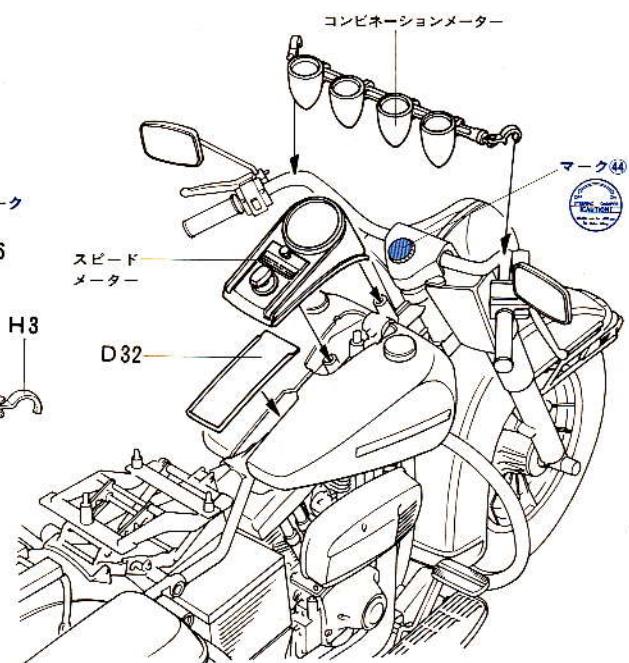
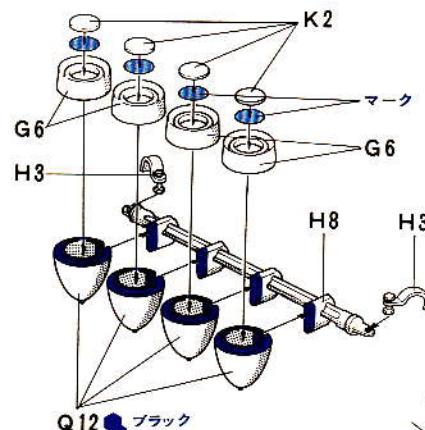


## 43 《ウインカーランプのくみたて》



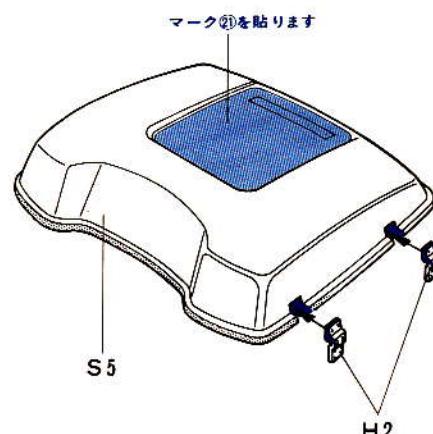
## 40 メーターのとりつけ

《コンビネーションメーター》

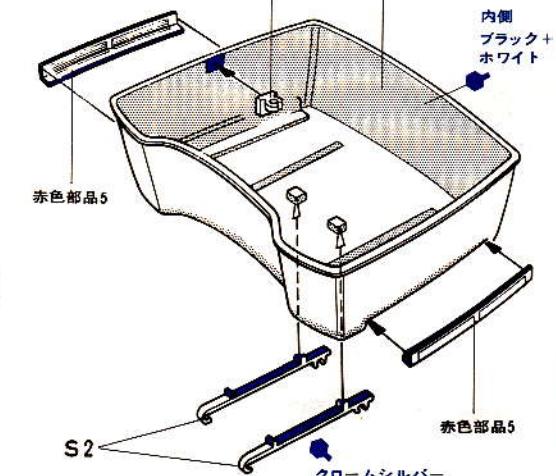


## 41 キングツアーバックのくみたて

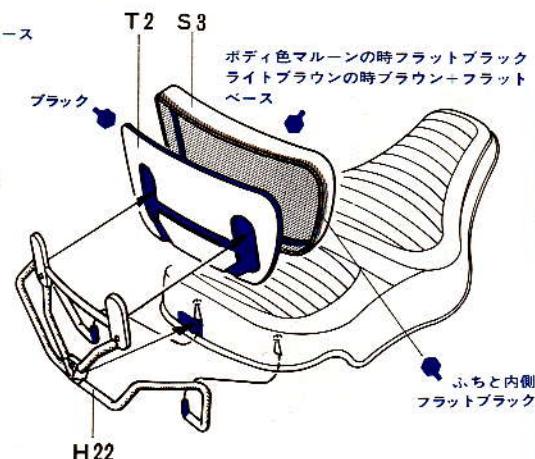
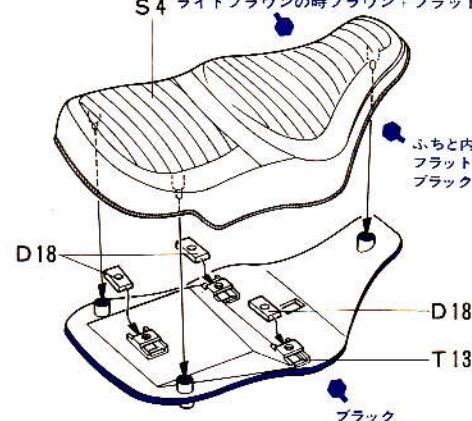
《キングツアーバッククリッド》



《キングツアーバック》 S1 S6

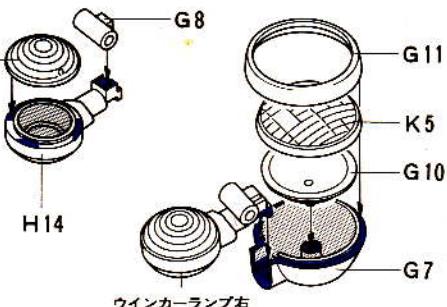
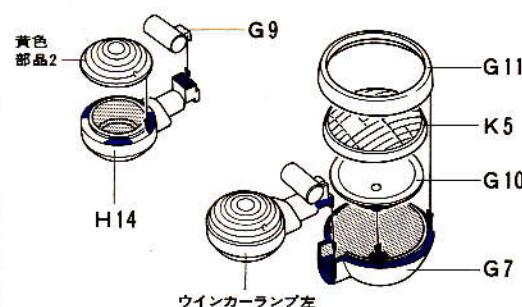


## 42 サドルのくみたて

ボディ色マルーンの時フラットブラック  
S4 ライトブラウンの時ブラウン+フラットベース

## 43 ウインカーランプのくみたて

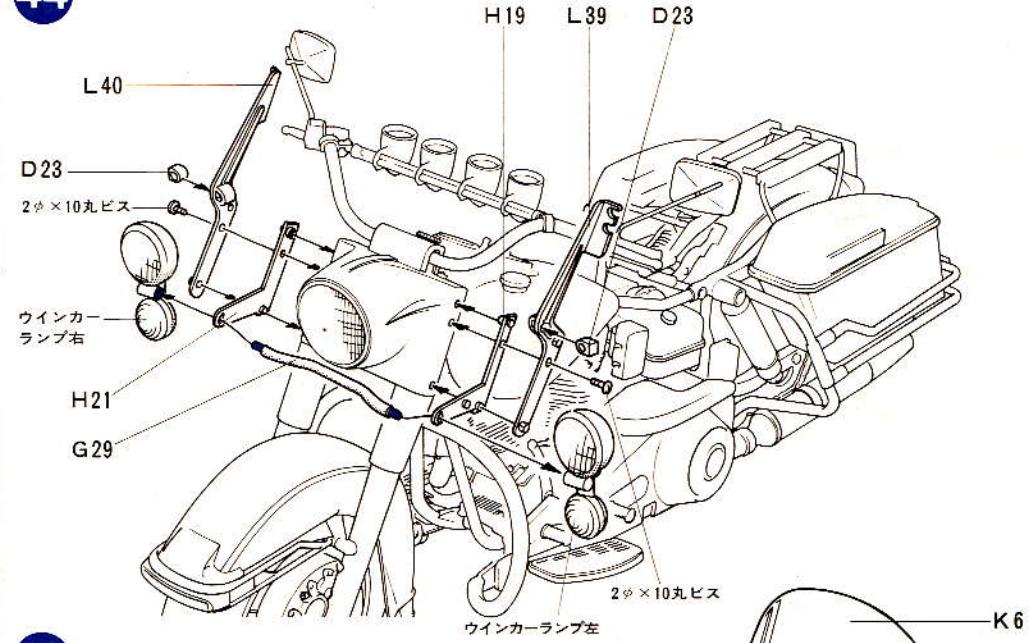
《ウインカーランプ左》 《ドライビングランプ左》 《ウインカーランプ右》 《ドライビングランプ右》



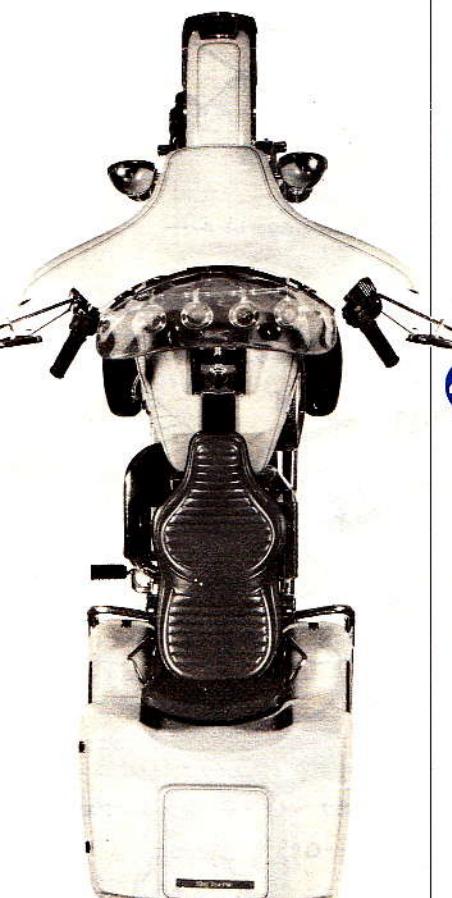
44 《ドライビングランプのとりつけ》



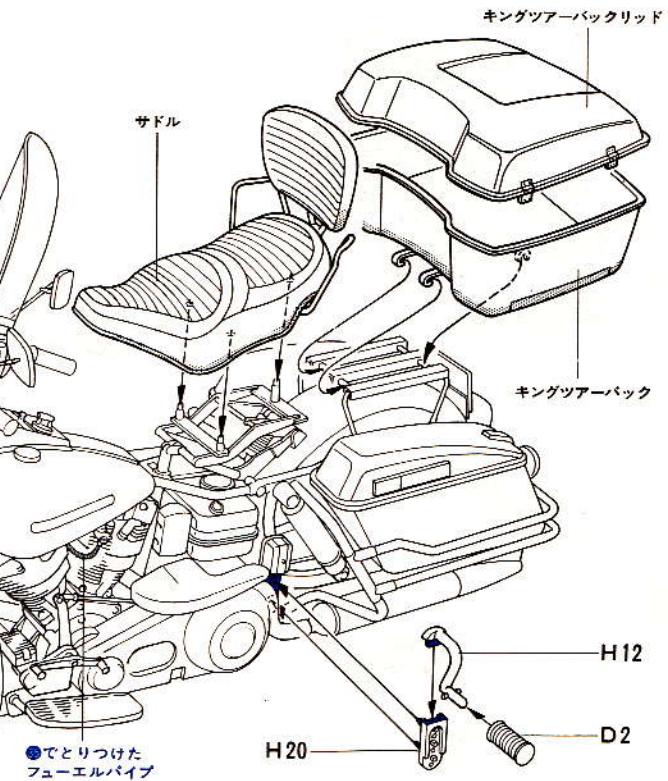
44 ドライビングランプのとりつけ



46 《サドルのとりつけ》



46 サドルのとりつけ

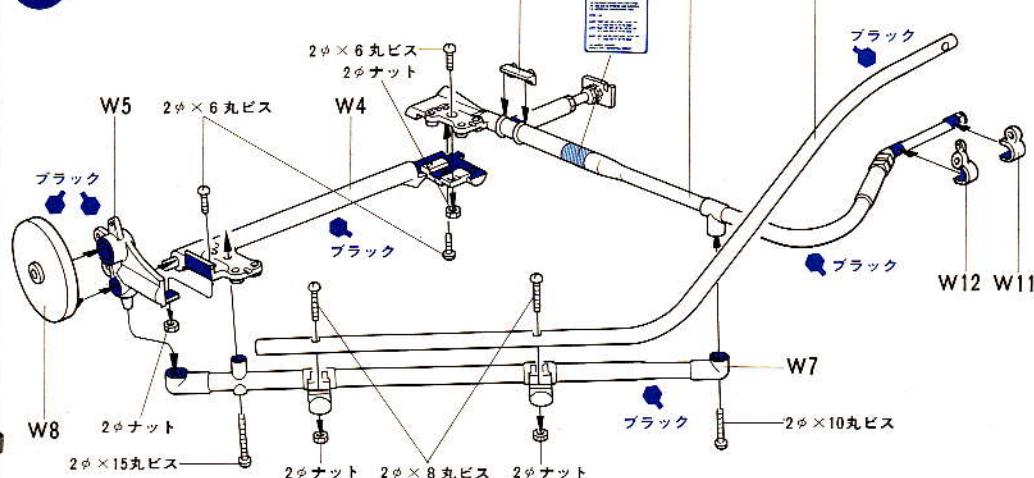


47 《サイドカーフレームのくみたて》



47

サイドカーフレームのくみたて

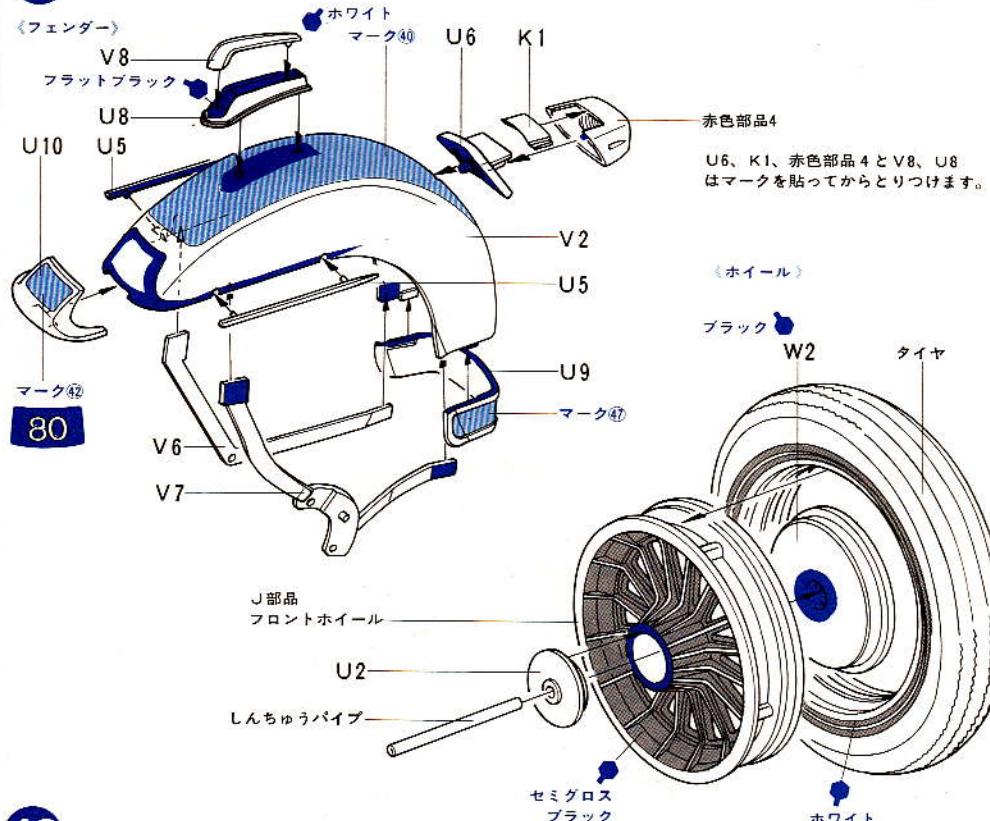


48 《フェンダーとホイールのくみたて》



48

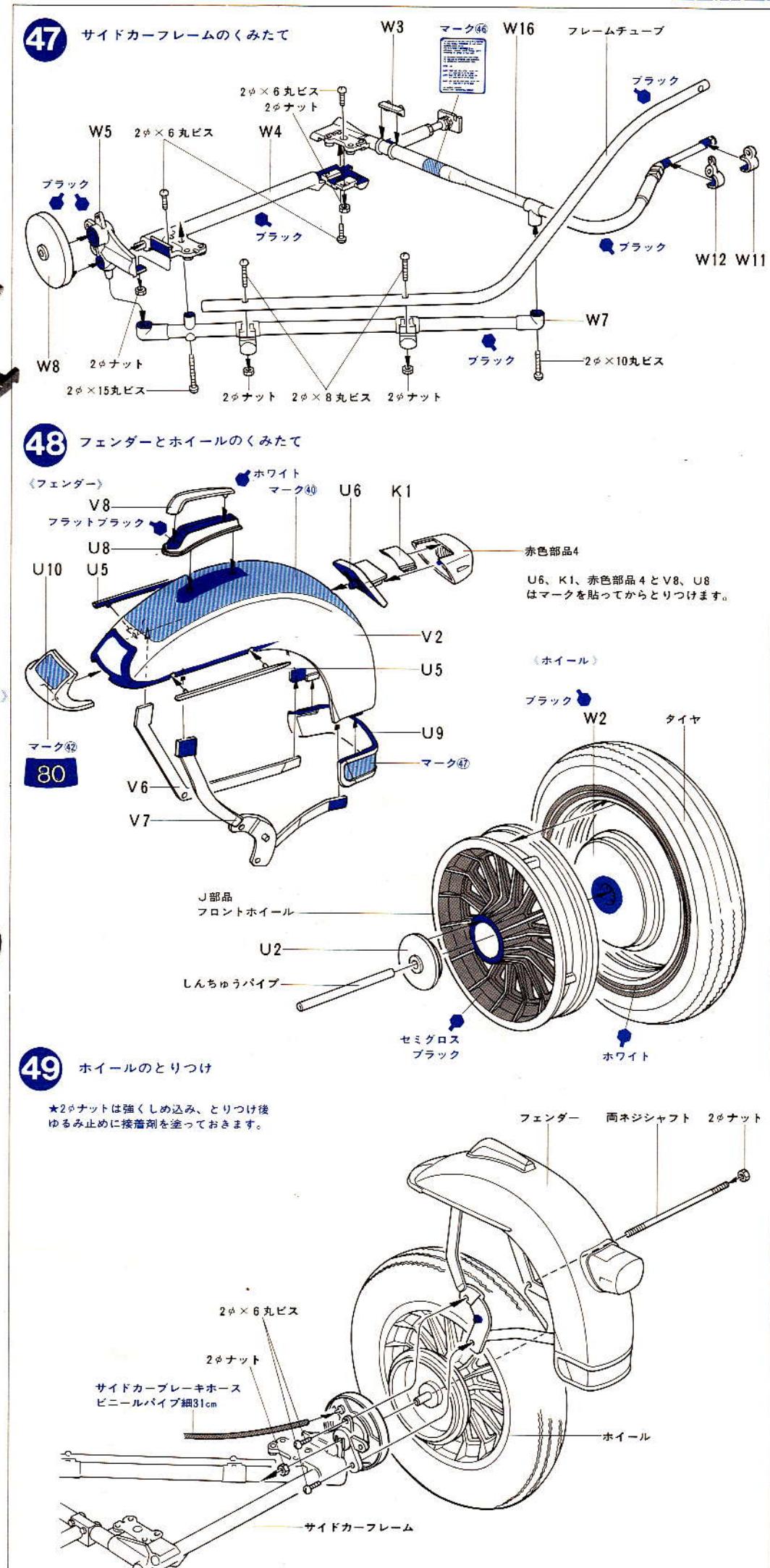
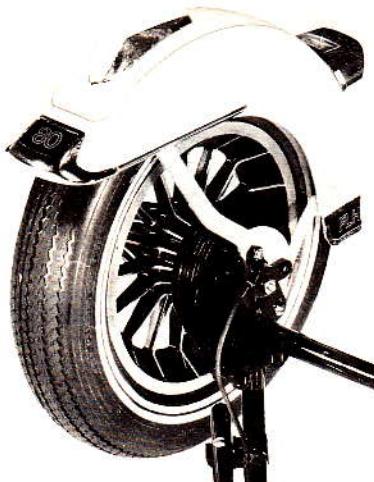
フェンダーとホイールのくみたて



49

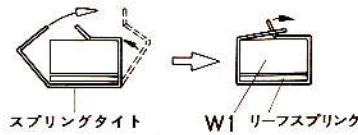
ホイールのとりつけ

49 《ホイールのとりつけ》



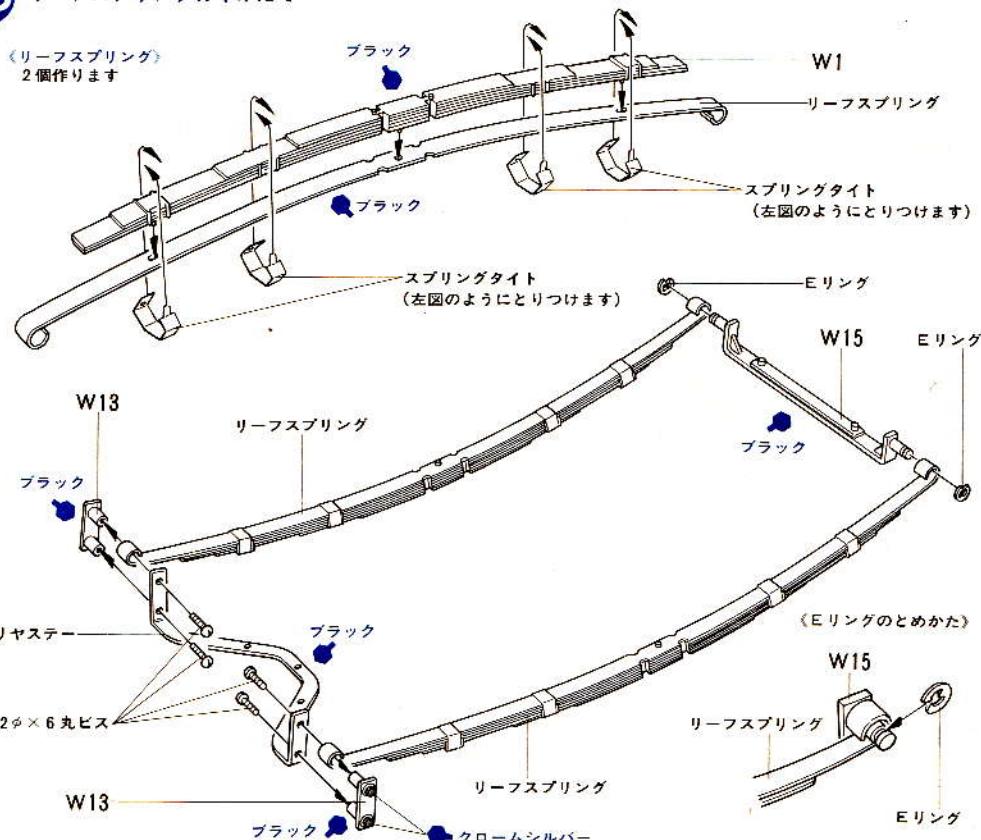
**50** リーフスプリングのくみたて

リーフスプリングは4コのスプリングタイトでとめます。下図を参考にW1とリーフスプリングをとめて下さい。

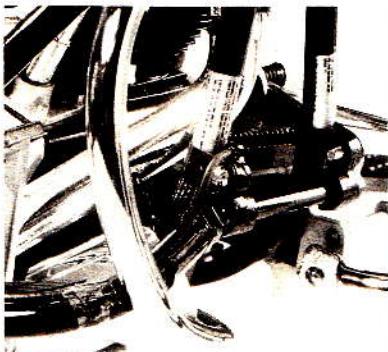


**50** リーフスプリングのくみたて

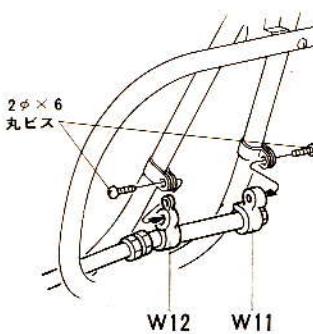
《リーフスプリング》  
2個作ります



**51** サイドカーフレームのとりつけ



《フレームのとりつけ》



**51** サイドカーフレームのとりつけ

スプリング止め金具 2φ×10丸ビス

2φ×10丸ビス

スプリング止め金具

U3

黄色部品1

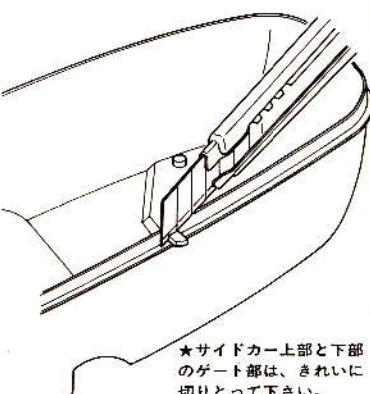
U4

⑩でとつけた  
ブレーキホース

セロファンテープで 2φ×6丸ビス  
とめておきます。

2φ×8丸ビス

**52** サイドカー上部のくみたて



★サイドカー上部と下部  
のゲート部は、きれいに  
切りとって下さい。

**52** サイドカー上部のくみたて

ボディ色マルーンの時  
フラットブラック  
ライトブラウンの時  
ブラウン+フラットベース

マーク⑨

V4  
クローム  
シルバー  
マーク⑨

V8

マーク⑩

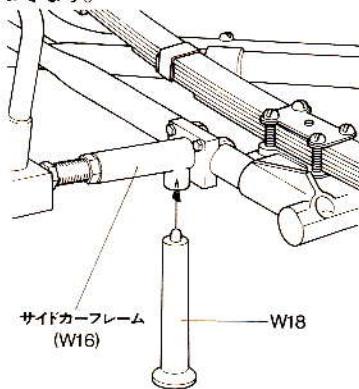
サイドカー上部

V1  
クローム  
シルバー

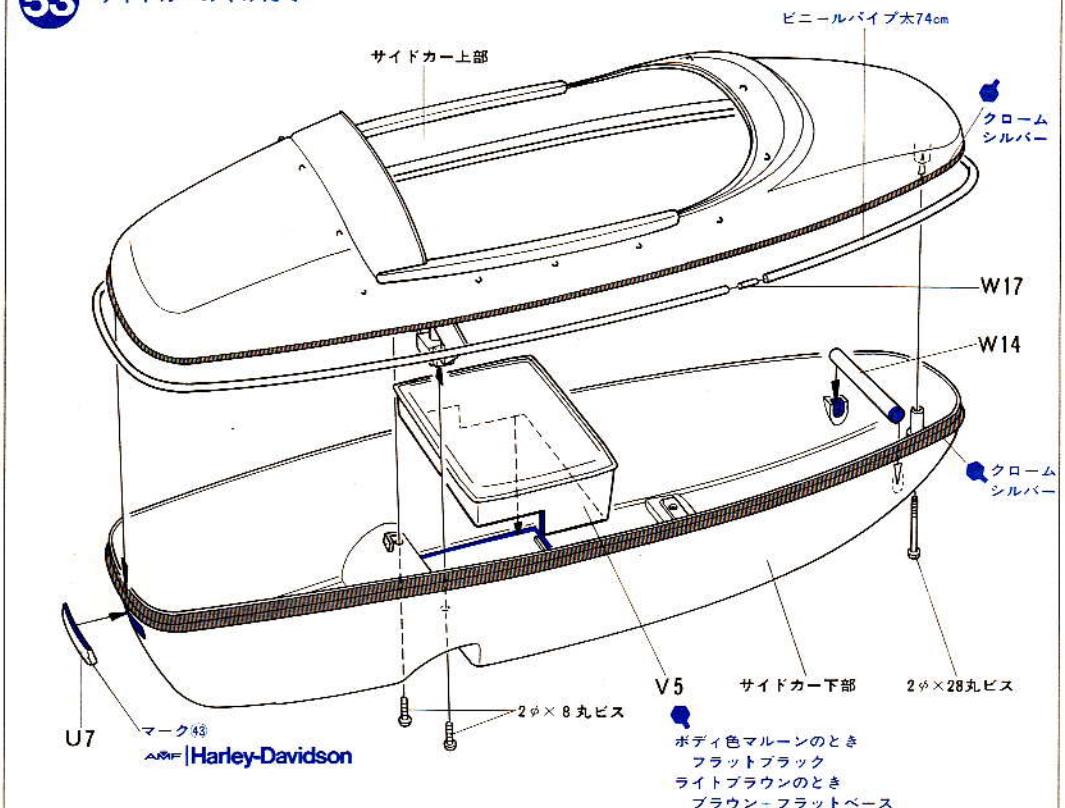
2φ×6丸ビス

W9

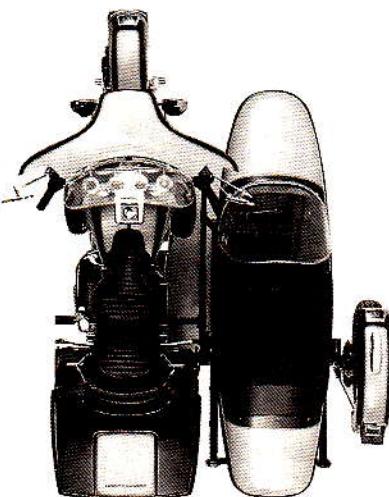
《展示用ステー(W18)のとりつけ》  
車体の重さでサイドカーフレーム(W16)がたわまないようにW18でとめておきます。



#### 53 サイドカーのくみたて

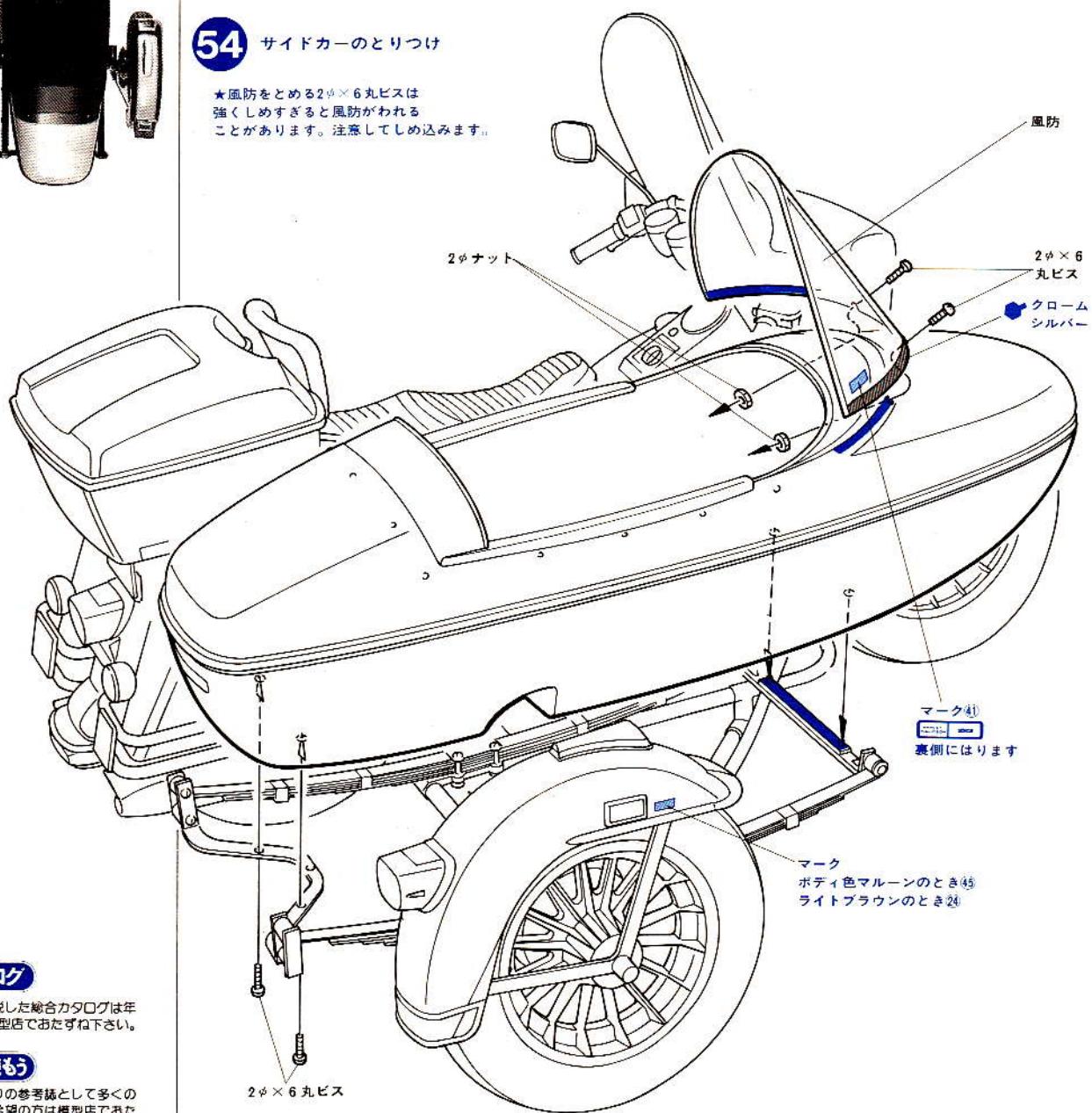


#### 54 サイドカーのとりつけ



#### 54 サイドカーのとりつけ

★風防をとめる2φ×6丸ビスは  
強くしめすぎると風防がわれる  
ことがあります。注意してしめ込みます。



#### タミヤの総合カタログ

タミヤの全製品を詳しく解説した総合カタログは年に1回発行。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。

#### タミヤニュースを読もう

タミヤニュースはモデル作りの参考誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期講読する方法もあります。

# PAINTING & APPLYING DECALS

## 《ハーレーサイドカーの塗装とマーキング》

ボディ色  
(マルーン  
&  
ライトブラウン)

ライトブラウンはホワイト: 3 + レモンイエロー: 2 + ブラウン: 1 の混合で作ります。

★ここで指示されていないマークは組み立て図中に指示しております。  
★タミヤカラーのクリヤー (TS13) を使用する場合はマークを貼る前に塗装して下さい。マークの上から吹きますとマークが傷みます。

**《クラシックサイドカーの塗装》**  
FLH80クラシックサイドカーは、その名のようにクラシカルなエレガントさにあふれた2トーンカラーの塗装となっています。このキットの成形色はマルーンとなっています。タミヤカラーのマルーンを吹きつけるか、または成形色を生かしてクリヤーを吹きつけて、スライドマークをはって仕上げるのがよいでしょう。なおスライドマークをはった上からクリヤーを吹きつけるのは、スライドマークを傷めますのでさて下さい。ライトブラウンとクリームの2トーンカラーなどもありますが、好みの色で塗装してみるのも楽しいでしょう。そのほか細部の塗装は組立図に示してあります。

### 《使用する塗料》

タミヤからは手軽に使えるスプレー式のタミヤカラーと筆塗り用エナメル塗料が発売されています。スプレー式タミヤカラーより

マルーン ..... TS11

クリヤー ..... TS13

筆塗り用エナメル塗料より

ブラック ..... X 1

ホワイト ..... X 2

ブラウン ..... X 9

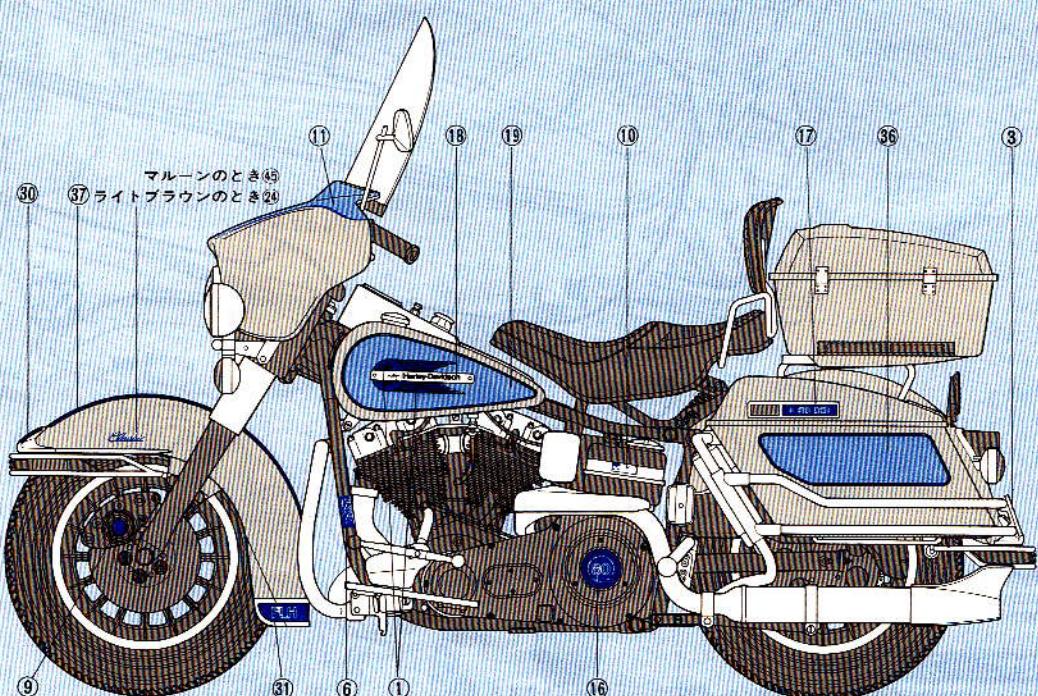
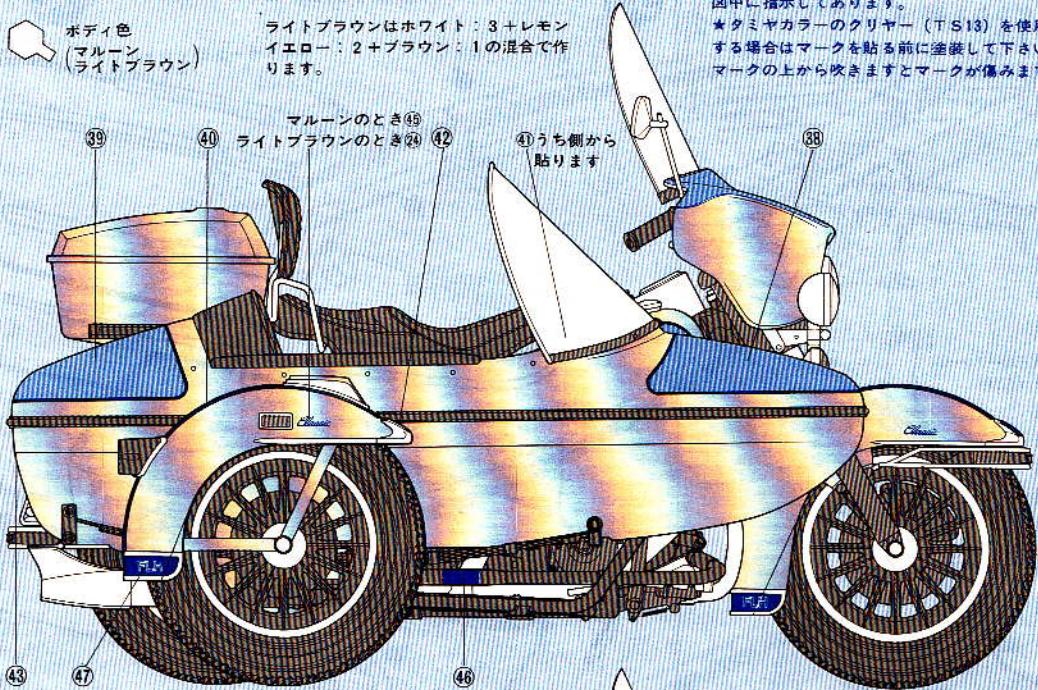
ガンメタル ..... X 10

クロームシルバー ..... X 11

フラットブラック ..... XF 1

フラットアルミ ..... XF 16

フラットベース ..... X 21



### 《スライドマークのはりかた》

#### 1 - 《マークを切りはなす》

はりたいマークをハサミで切りとります。心らずニス(透明な)部分をきれいに切りとります。

#### 2 - 《マークを水にひたす》

マークの白紙が弓状にまがった所で水からひき上げタオル等の布の上におきます。

#### 3 - 《マークをはる》

1~2分してから紙のはしを手で持ち、マークをスライドさせて、モデルに移して下さい。

#### 4 - 《マークを正しい位置に移す》

指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置に移します。

#### 5 - 《布で水分をとる》

タオル等のやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして余分な水分をとります。

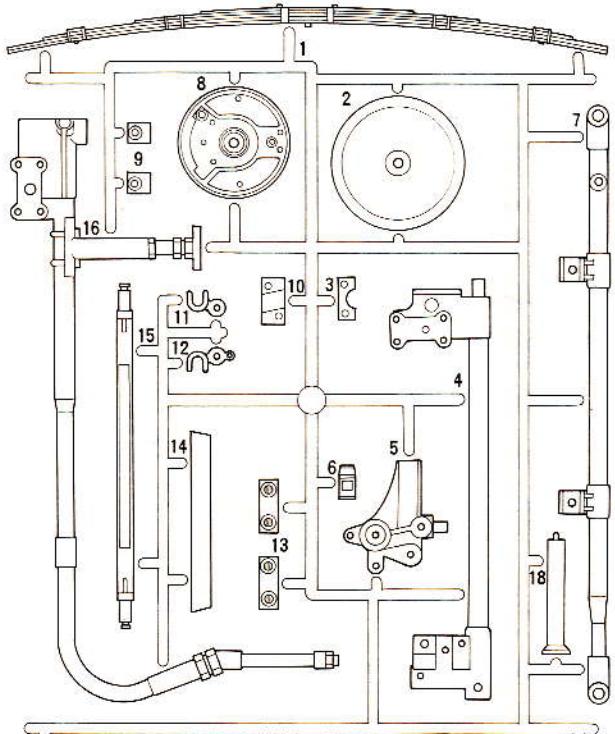
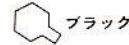
マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみやすくなります。



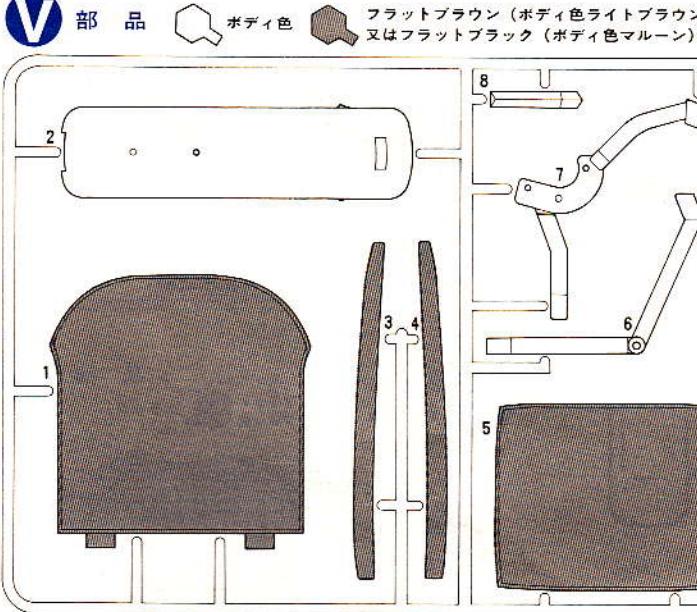
## PARTS

サイドカー上部.....×1  
サイドカーアンダーパーツ.....×1

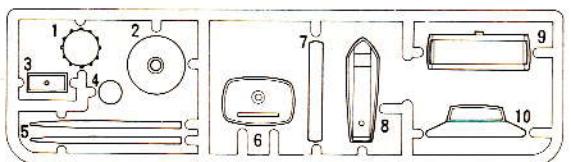
### W 部品



### V 部品

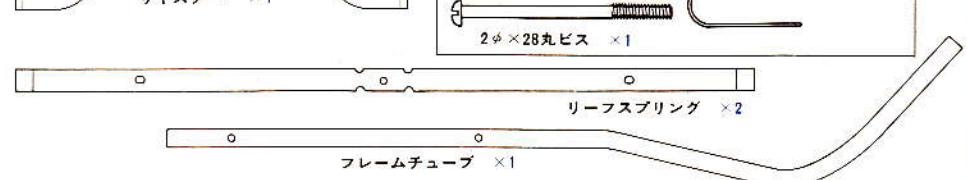
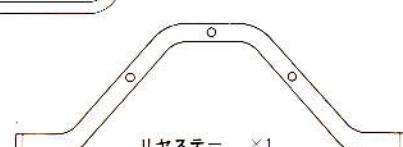
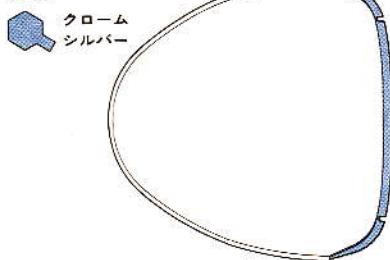


### U 部品



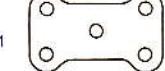
(金具袋詰)

### 風防



《ビス袋詰C》

スプリング止め金具 ×2
2φ×15丸ビス ×5
2φ×8丸ビス ×9
2φ×10丸ビス ×1
2φ×28丸ビス ×1

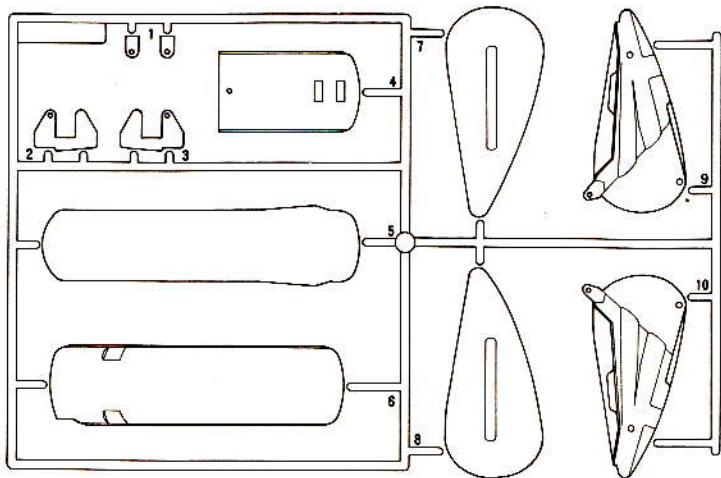


リーフスプリング ×2

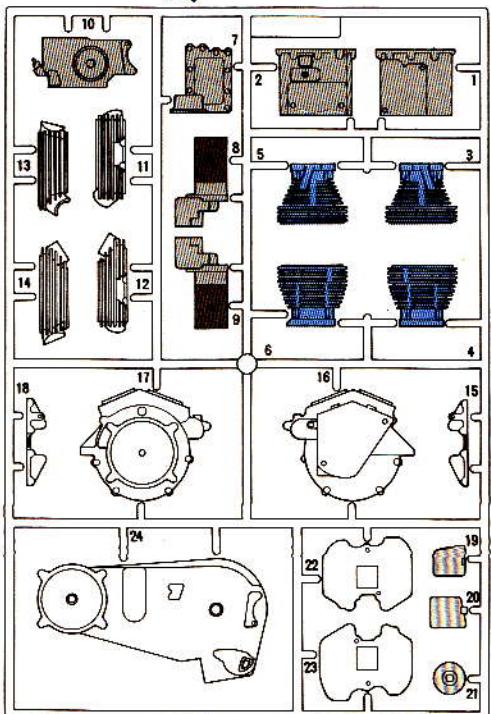
フレームチューブ ×1

# PARTS

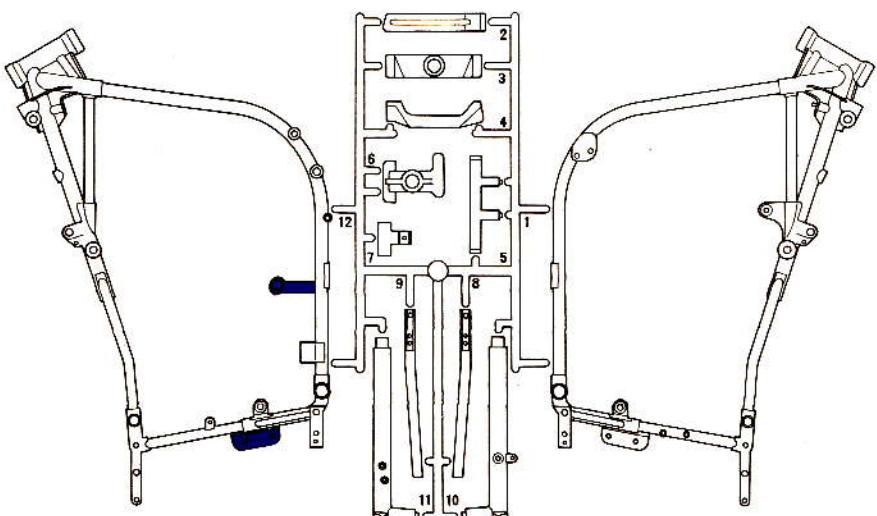
## A 部品 ボディ色



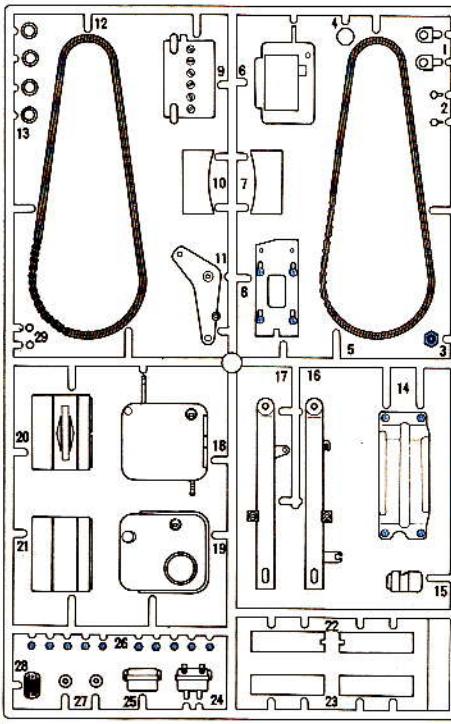
## E 部品 ガンメタル ブラック セミグロスブラック フラットアルミ ブラック



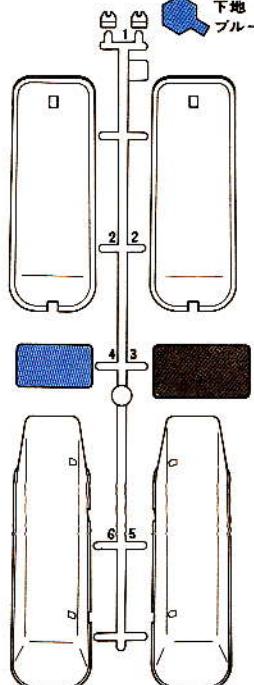
## B 部品 ブラック 不要部分 切りとて下さい



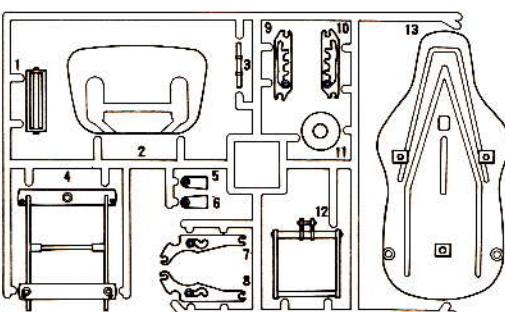
## C 部品 ブラック ガンメタル クロームシルバー



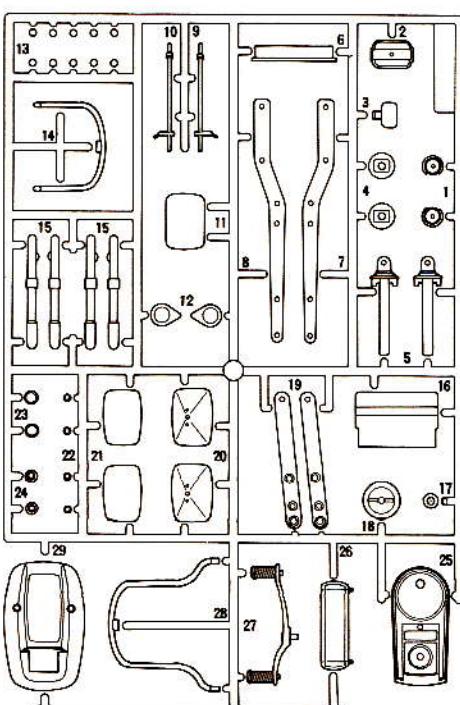
## R 部品 ボディ色 下地ホワイトグリーン 文字ホワイトグリーン 下地ブルー 文字レモンイエロー



## T 部品 ブラック クロームシルバー

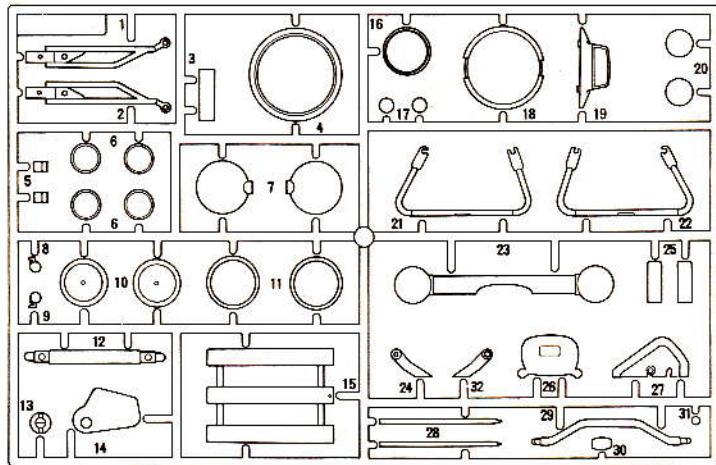


## F 部品 フラットブラック ブラック

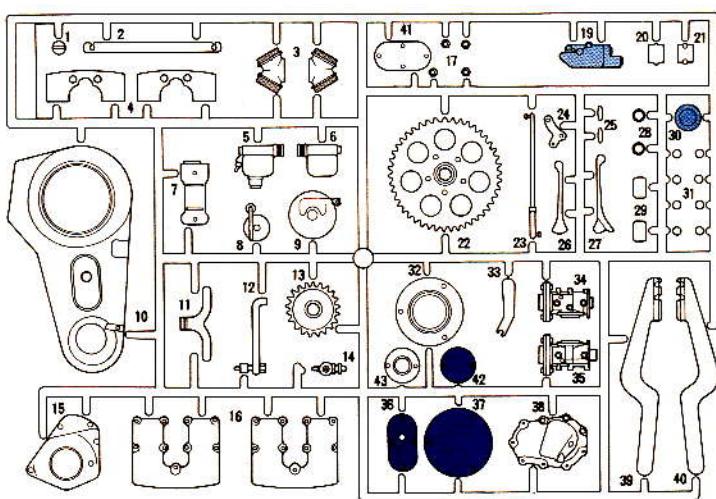


# PARTS

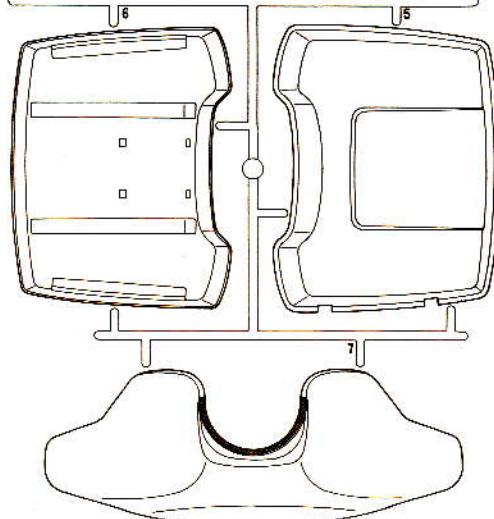
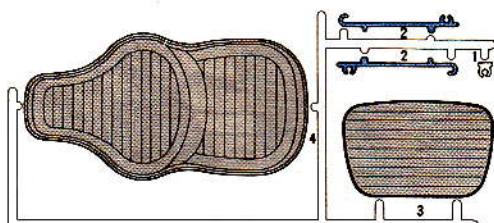
## G 部品



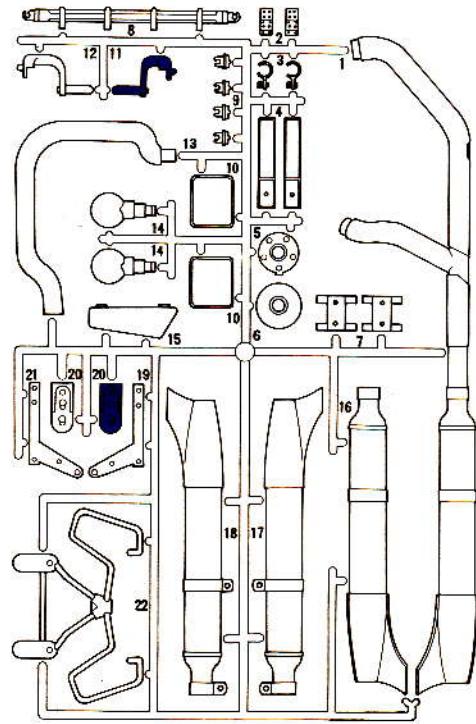
## L 部品 フラットブラック ガンメタル 不要部品



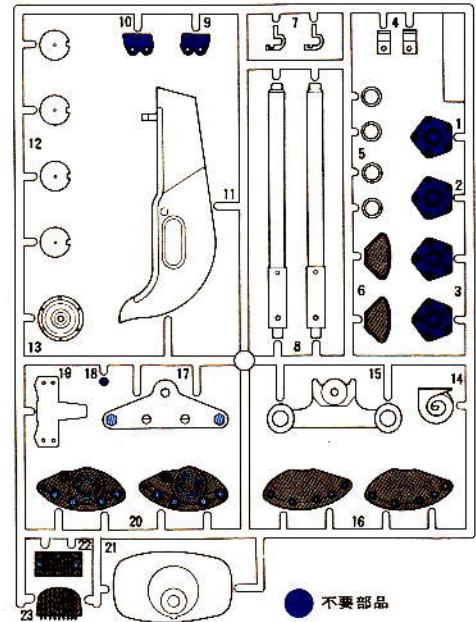
## S 部品 ボディ色 フラットブラック クローム シルバー ボディ色マルーンの時フラットブラック ライトブラウンの時ブラウン+フラットベース



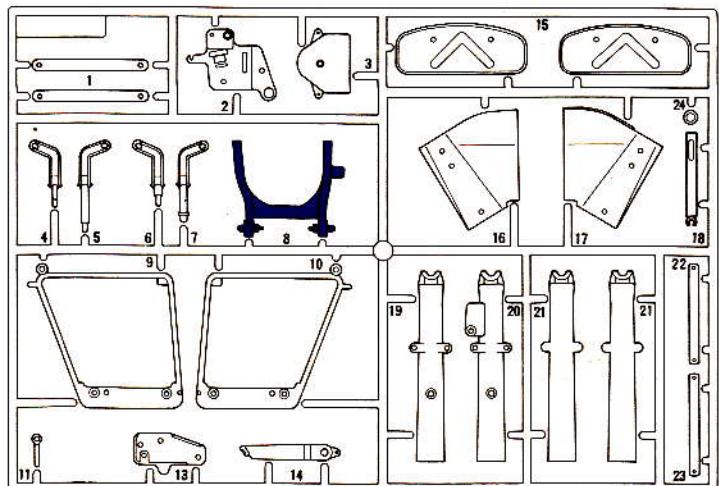
## H 部品 不要部品



## Q 部品 ブラック セミグロスブラック クローム シルバー 不要部品

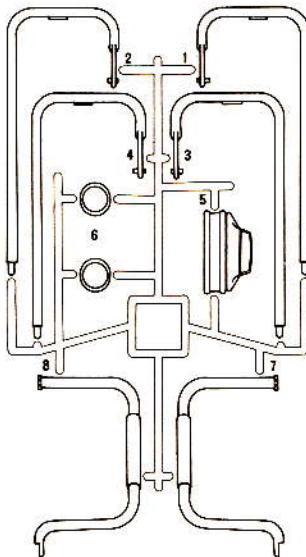


## N 部品 不要部品



# PARTS

## P 部品



★部品請求にはこのカードが必要です。  
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、  
郵便番号(できれば電話番号)を1字づつは  
つきりとお書き下さい。

## HARLEY DAVIDSON FLH CLASSIC with SIDECAR

### 1/6ハーレークラシックサイドカー

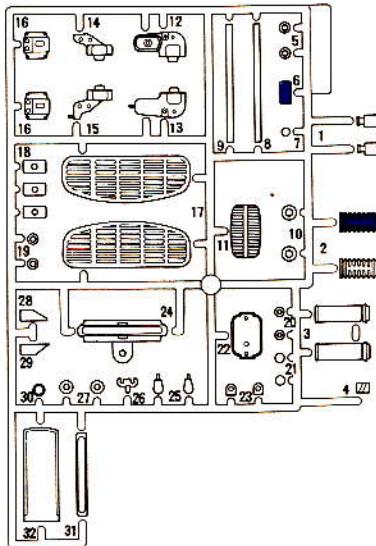
A 部品	500円
B 部品	450円
C 部品	400円
D 部品	350円
E 部品	550円
F 部品	500円
G 部品	450円
H 部品	600円
J 部品(ホイル3コ)	600円
K 部品	400円
L 部品	450円
M 部品	600円
N 部品	450円
O 部品	450円
P 部品	450円
Q 部品	450円
R 部品	400円
S 部品	600円
T 部品	300円
U 部品	350円
V 部品	500円
W 部品	400円
赤色部品	250円
黄色部品	250円
風防	300円
サイドカー上部下部	1300円
タイヤ(1本)	300円
ビス袋詰A	200円
ビス袋詰B	200円
ビス袋詰C	200円
スプリング袋詰	200円
ブレーキディスク(2枚)	200円
ハンドル	250円
セフティガード	250円
バッテリーカバー	200円
エキゾーストカバー	200円
ダンバーパーツ(2個)	200円
リーフスプリング(2枚)	400円
フレームチューブ	400円
リヤーステー	250円
ビニールパイプ式	200円
マーク(2枚)	350円

0491 ITEM 16018

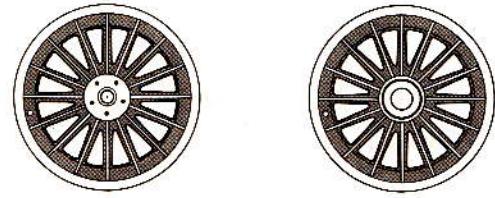
上記の価格は予告なく変更となる場合が、あ  
りますので御諒承下さい。

**田宮模型**  
静岡市恩田原3-7 〒422

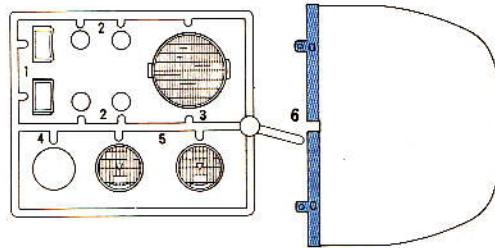
## D 部品 ● 不要部品



## J 部品 セミグロスブラック (フラットブラック:1 ブラック:1) フロントホイール×2 リヤホイール×1



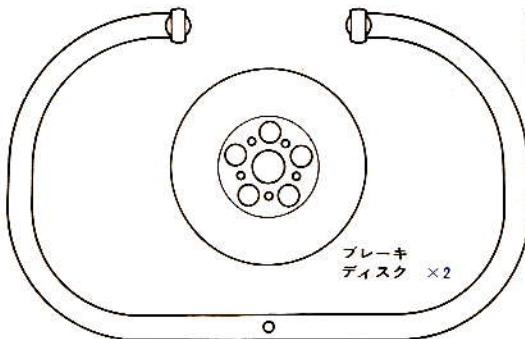
## K 部品 クロームシルバー



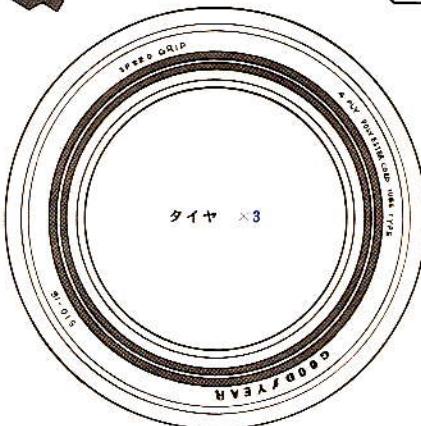
## M 部品

ビニールパイプ太 ..... ×1  
ビニールパイプ中 ..... ×1  
ビニールパイプ細 ..... ×1

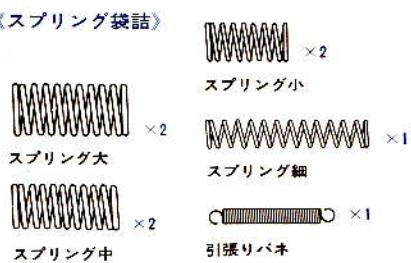
### セフティガード ×1



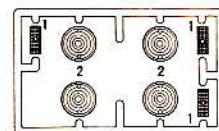
### ホワイト



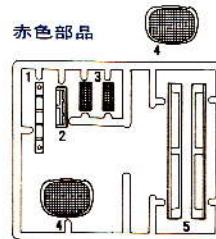
### 《スプリング袋詰》



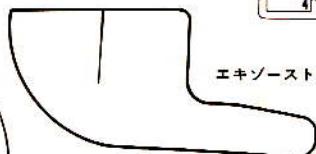
### 黄色部品



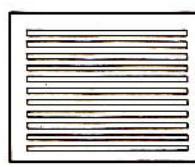
### 赤色部品



### エキゾーストカバー ×1



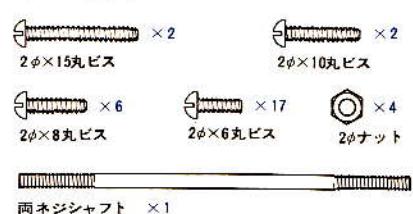
### リヤダンバーパーツ ×2



### ハンドルバー ×1



### 《ビス袋詰A》



### 《ビス袋詰B》

